

インターネットでの社会実証（第一期） 結果報告

2022年6月2日

- ・「社会実証」実施の経緯、検証内容等（「テレビを全く/ほとんど見ない方」が対象）
- ・「社会実証」の評価
 - 各サービスで提供した機能の評価
- ・全体評価
 - （参考）“テレビ層”からの評価等
- ・NHKによる自己評価

「社会実証」実施の経緯、検証内容等

総務省の要請を受け、情報空間におけるN H Kの意義、役割の確認のため、社会実証を実施した。

社会実証の経緯

- 令和3年8月27日、総務省からN H Kに、放送番組等のインターネット配信の意義やサービスニーズを検証するため、**テレビを保有していない方々を対象**として、放送番組等の配信を行う社会実証実施の要請があった。
- N H Kはかねてより、総務省検討会などの場でインターネット時代の公共放送の意義や役割等が課題であることを提起してきており、要請もふまえて実施することとした。

社会実証で目指すこと

情報空間におけるN H Kの意義、存在価値の確認

- N H Kは公共放送として、「表現の自由のもと、正確で公平・公正な情報や豊かで良質な番組を幅広く提供し、健全な民主主義と文化の向上に寄与する」ことを掲げ、業務にあたってきた。
- しかし、インターネットやスマートフォンの普及などで、N H Kを取り巻くメディア環境や視聴者行動が大きく変化しており、情報空間においてのN H Kが果たす意義や存在価値を確認する必要性が出てきている。
- このため、今回の社会実証で、N H Kが情報空間に提供するサービスについて、テレビ未所有者などの利用の可能性や、サービスの意義を確認し、結果を踏まえて、N H Kの新たなあり方につなげることを目指す。

社会実証のポイント

- 多元性、多様性、地域性、フェイクニュース対策等への貢献を確認
- 報道、教育、教養、娯楽の各分野での意義も確認
- 社会実証の状況を提示して、一定規模の世論調査も実施

望ましい情報空間の実現に関するNHKへの期待

総務省「デジタル時代における放送制度の在り方に関する検討会」論点整理

NHK

【論点1】 デジタル時代における放送の意義・役割

1

- ◆ 放送は、民主主義の基盤であり、災害情報や地域情報等の社会の基本情報の共有というソーシャル・キャピタルとしての役割を果たしてきた。
- ◆ インターネットを含めて情報空間が放送以外にも広がるデジタル時代において、そうした放送の役割を更に果たしていくことが期待されている。
- ◆ また、情報空間の広がりや競争環境の変化等を踏まえ、放送ネットワークインフラの効率化や放送制度における規制の合理化等、柔軟に検討していくべきである。

○放送を巡る環境の変化

- ✓ インターネットによる「カジュアルな動画視聴」の拡大等、視聴者の視聴スタイルが急速に変化している。視聴者にとって放送と通信の区別が意識されなくなっているほか、スマートフォン等による動画視聴のパーソナライズ化も進んでおり、若者を中心として「テレビ離れ」がますます加速している。
- ✓ 例えば、自宅におけるインターネット（パソコン、タブレット、モバイル）によるメディア接触時間は年々増加傾向にある一方で、テレビは、2020年はコロナ禍の影響で一時的に増加したものの、減少傾向にある（出典：第1回会合 奥構成員資料）。

○デジタル時代における放送の意義・役割

- ✓ 放送の「公共性」とは公衆の包摂・形成であり、放送はこれまでも社会の構成員の相互理解・対話を促進し、安定的・持続的に「公衆」を形成するという社会インフラとしての役割を果たしてきた。インターネットも含めて情報空間が放送以外にも広がるデジタル時代において、このような民主主義の基盤、災害情報や地域情報等の社会の基本情報の共有というソーシャル・キャピタルとしての放送の役割を更に果たしていくことが期待されている。
- ✓ 取材や編集に裏打ちされた信頼性の高い情報発信は、放送の重要な価値である。メディア環境が多様化する中、日々進化を続ける情報通信技術をうまく活用しながら、信頼される情報の社会的基盤としての放送の役割を今後も果たし続けていくべきである。
- ✓ 人々の関心や注目の獲得ばかりが経済的な価値を持つアテンションエコノミーが情報空間を侵食することは民主主義にとって好ましいことではなく、信頼性の高い情報を発信する放送は、インフォメーション・ヘルス（情報的健康）※の確保に重要な役割を果たすべきである。
※ 多様な情報にバランスよく触れることで、フェイクニュース等に対して一定の「免疫」（批判的能力）を獲得している状態。
- ✓ 特に、フェイクニュースといったインターネット上の情報に係る課題の是正に重要な役割を果たすべきである。

望ましい情報空間の実現に関するNHKへの期待

総務省「デジタル時代における放送制度の在り方に関する検討会」主な意見



デジタル時代における放送の意義・役割を果たすために	環境に対応した課題への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 「どのようなテレビの公共的な価値を残し、それをどのようにユニバーサルに提供していくのかの定義が求められている」(瀧構成員) 「放送そのもの持っている価値は失ってはいけないと思う。もしインターネットの世界でまた放送を流していくということになれば、むしろ放送基準を大切に、ネット上にある様々な別の課題の是正に力を発揮するぐらいの思いで乗り込んでいただければいい」(長田構成員) 「若者が加齢によって、今後さらにネット側にシフトを重ねるのであれば、放送事業者が国民全体にリーチするためには、若者対策に早めに手を打たないとかなり厳しい」(奥構成員)
	安定した経営基盤	<ul style="list-style-type: none"> 「日本のコンテンツの国際競争力の維持にあたって、安定した経営基盤を持っていただくということが非常に重要なのではないか」(落合構成員)
社会の基本情報の共有(ソーシャル・キャピタル)	生命・身体の維持	<ul style="list-style-type: none"> 「放送によって社会全体で共有されるべき基本的情報としては、生命・身体の維持のための情報(災害や健康に関する情報等)等がある」(曾我部教授)
	多様性・自律	<ul style="list-style-type: none"> 「放送によって社会全体で共有されるべき基本的情報としては、社会の多様性・自律を助ける情報(教育情報等)等がある」(曾我部教授)
	地域・伝統の多様性	<ul style="list-style-type: none"> 「人口減少時代に地域放送の多様性をいかに維持するか、放送における協調領域と競争領域の再定義が必要なのではないか」(三友座長) 「放送によって社会全体で共有されるべき基本的情報としては、国民の維持のための情報(伝統文化に係る情報等)等がある」(曾我部教授)
	相互理解・対話を促す	<ul style="list-style-type: none"> 「同時・同報の信頼される基幹的メディアとして公衆(public)の包摂・形成が放送の「公共性」。構成員の相互理解・対話を促進し、安定的・持続的に「公衆」を形成するために、社会インフラとしての放送への期待は大きい」(宍戸教授)
民主主義の基盤としての公共性	信頼できるコンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> 「放送の公共性とは、自由な言論の結果としての世論形成に影響を及ぼす民主主義の基盤であるからであり、信頼できるコンテンツの発信のために、誠実に真実を取材し、分かりやすく編集し伝えるという伝統的な役割を持続していくことが、放送の公共性を貫くことだと思う」(大谷構成員) 「放送が「社会の基本情報の共有」といういわばソーシャル・キャピタルとしての役割を果たしていくためには、安心・安全情報を含む視聴者から信頼されるコンテンツに経営資源を可能な限り投下していくことが必要」(林構成員)
情報空間の持続可能性	フィルターバブル対策	<ul style="list-style-type: none"> 「アテンションエコノミーの興隆との関係で、エコーチェンバーやフィルターバブルが起きていることもあり、ある種自由放任ということではまずいと。そういうことで、『国家からの自由』というよりも、『国家による自由』というものが大事だという議論が有力になってきているように思う」(山本龍彦構成員)
	フェイクニュース対策	<ul style="list-style-type: none"> 「多元性、多様性、地域性」とともに「フェイクニュース対策等への貢献」に言及されていることは大変好ましいことだと思う。ファクトチェックへの取組等について、透明性のある対応が必要と思われるところ、その先導的立場をキープしてもらいたい」(大谷構成員)
	インフォメーションヘルス	<ul style="list-style-type: none"> 「情報空間の全てがアテンションエコノミーに染まっていくのは、民主主義にとって好ましいことではないのではないか。インフォメーションヘルスのためには、信頼できる多様な情報をバランス良く摂取していくことも重要ではないか。このような現状認識の下で、放送の意義、また、信頼できる、ある意味で栄養食、免疫食としての特に公共放送、この意義が再確認、場合によっては再定義されなければならないのではと思っている。放送は、アテンションエコノミーが拡大して、情報空間がいわばカオス化していくという中で、持続可能なものにしていかなければならない」(山本龍彦構成員) 「プラットフォームとの連携・協力関係などの方法が、まさに問われている」(山本龍彦構成員)

出所) 総務省「放送の将来像と制度の在り方に関する論点整理」(2022年3月31日)

社会実証の対象者(1/2)

人々の情報行動の変化 - テレビ視聴の観点から

「テレビを全く/ほとんど見ない（視聴時間が1日当たり1時間程度・1時間未満である）」方が約20%を占める。

= 「社会実証」の対象（対象の特徴の整理）

平日・休日合成
1日あたり視聴時間
(いずれか多い方)

	テレビ非保有世帯*1	テレビ保有世帯（4K以外）	4Kテレビ保有世帯
6時間以上	12%	14%	12%
5時間程度	10%	13%	13%
4時間程度	10%	16%	16%
3時間程度	16%	20%	19%
2時間程度	15%	18%	19%
1時間程度	② 15%	18%	19%
見ていない	① 22%	④ 14%	④ 14%
		③ 6%	③ 5%
	713	7,119	2,168

調査対象：N = 10,000
※無回答を除き集計

- ① テレビ非保有・非視聴層
：N=154
- ② テレビ非保有・ライト視聴層*2
：N=110
- ③ テレビ保有・非視聴層
：N=546
- ④ テレビ保有・ライト視聴層*2
：N=1,293

⇒テレビを全く/ほとんど見ない方
計：N=2,093
(全体の20%程度)

*1：「テレビ非保有世帯」に関わらず、「テレビを視聴している」と回答された方については、誤回答、あるいは職場・病院など公共の場所での視聴の可能性を想定

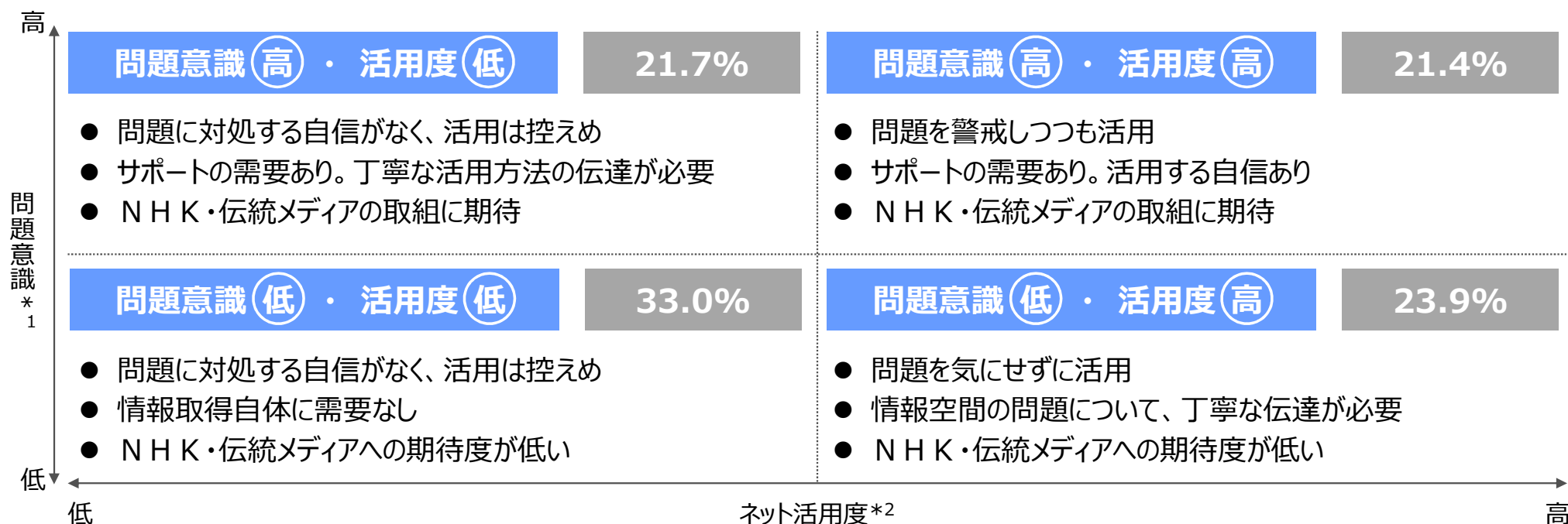
*2：平日・休日合成視聴時間/日が1時間程度以下の方を、「ライト視聴層」と定義

出所) 野村総合研究所「生活者1万人アンケート調査」(2021年8月調査・訪問留置法・全国の満15~79歳の男女個人10,164人を対象(層化二段無作為抽出法))

社会実証の対象者(2/2)

「テレビを全く/ほとんど見ない方」の情報行動やニーズ

社会実証の対象は、全体の20%程度を占める「**テレビを全く/ほとんど見ない方々**」である。こうした方々は、インターネットの活用度やインターネット上の課題に対する問題意識等に基づいて下記の通り分類できる。



注：調査対象は、N=10,000（無回答を除き集計）。その内、①テレビ非保有・非視聴層：N=154、②テレビ非保有・ライト視聴層：N=110、③テレビ保有・非視聴層：N=546、④テレビ保有・ライト視聴層：N=1,293の4つの層が計2,093となり、全体のおよそ20%（なお、「ライト視聴層」は、平日・休日合成視聴時間/日が1時間程度以下の方々と定義）

*1：「インターネットのネガティブ評価（1～6番目まで）の個数が、全体平均（2.99≒3個）を上回る場合」と定義

*2：「インターネットを毎日利用、かつ、平日仕事以外で2時間以上利用」と定義

出所）野村総合研究所「生活者1万人アンケート調査」（2021年8月調査）

社会実証（第一期）で試行した機能と対象者の関係

「テレビを全く/ほとんど見ない方々」の問題意識に合わせ、情報空間に必要と想定される3つの機能を備えたサービスを提供し、NHKに求められる役割を検証・評価した。

テレビを全く/ほとんど見ない方

4分類	NHKに求められる役割
問題意識 高 活用度 高	整理・分析された情報が見られる状態にする 基本的には自律的な選択を最大限尊重する
問題意識 高 活用度 低	ナッジ*を通じた働きかけを行い、 自然と重要な情報を取得できるようにする
問題意識 低 活用度 高	重要な情報のありかを分かりやすい形で展開する 新たな観点・重要な問題を丁寧に伝達する
問題意識 低 活用度 低	知っておくべき重要な情報が、 インターネット上でも目に付くようにする

社会実証にあたってサービスに備えた機能

- 正しく理解が深まり、気付く**
フィルターバブルから抜け出せるように、
情報の偏りや注意すべき情報、
公平で信頼できる情報に気付いてもらう機能
- 知識が広がり、つながる**
過去の膨大な情報を活用し、
新たな気付きや異なる考え方、
判断の材料を提供する機能
- 簡単に、必要な情報が見つかる**
自分の学びにつながる情報が
簡単に手に入る機能

*人々が強制によってではなく、自発的に望ましい行動を選択するよう促す工夫のこと

社会実証 実施の基本的考え方

総務省「デジタル時代における放送制度の在り方に関する検討会」
(第8回) 日本放送協会資料より

NHK

- これまでNHKが、NHK NEWS WEBやNHKプラスなどでお伝えしてきたコンテンツを組み合わせるとともに、放送と通信融合時代にNHKに期待される「正しく理解が深まり、気付く」・「知識が広がり、つながる」・「簡単に、必要な情報が見つかる」の3つの機能を、7つのサービスイメージを通じて実証する。
- 必要と考える機能を検証することを主な目的とし、UIやUXなど、使い勝手の面については、第二期以降に検証予定。

NHKの2つのインターネットサービスを組み合わせるとともに、放送と通信融合時代に必要と考える機能を検証

NHK NEWS WEB

- 様々なデバイス・無料で閲覧可能
- 社会・気象/災害・科学/文化・スポーツなど、多様な情報を提供
- 直近2時間でツイート数が多い記事/24時間で読まれている記事をランキング形式で提示

⇒以下のような価値を社会実証の参加者に提供

- 公平で信頼できる情報を得られる
- 他利用者が関心のある事象・問題を把握できる



NHKプラス

- 常時同時配信・見逃し番組配信サービス
- 利用者に対価を求めず、現在は受信契約者本人と、本人と生計を同一にする方のみが視聴可能
- テレビを保有していないインターネットのみの利用者は視聴不可
- 各地域のコンテンツもスマホなどで視聴可能

⇒以下のような価値を社会実証の参加者に提供

- いつでも・どこでも多様な番組を視聴できる
- 地域理解が促進、異なる考え方に気付ける



社会実証（第一期）のサービス

総務省「デジタル時代における放送制度の在り方に関する検討会」
（第8回）日本放送協会資料より



7つのサービスにより、3つの機能について、実証を行った。

必要と考える機能

正しく理解が
深まり、気付く
知識が広がり、
つながる
簡単に、必要な
情報が見つかる

検証方法

サービス	正しく理解が 深まり、気付く	知識が広がり、 つながる	簡単に、必要な 情報が見つかる	検証方法
① ● 主要ニュースについて、NHKの豊富なアーカイブを活用し 類似ニュースの“まとめ”とは違う多角的視点を提示 NEWS WEB ・NHK+		✓	✓	A アプリ・サイトを 作成し、 実際のサービスに 近い感覚で実証
② ● 話題となっているコンテンツについて、通常のリコメンドの 範囲とは違う幅やジャンルの多角的視点を提示		✓	✓	
③ ● 最新ニュースについて、SNSでの盛り上がり进行分析し、 分断やスパムを検知し、信頼性の課題等をアラート フェイクアラート	✓			B Aとは別に サービスイメージを 個々に提示し、 実証
④ ● 災害報道の情報を蓄積して、地図上に可視化し、 危険予測・判断材料を提供 災害マップ		✓	✓	
⑤ ● あるニュースのテーマについて、各都道府県での差異を 地図などで同時に提示し、日本の多様性を提示 地域ニュース	✓			
⑥ ● 多くの動画ニュースが一目でわかると共に、重要度や 新着順などに応じて適切に自動編集、連続再生する機能 一望・連続再生		✓	✓	
⑦ ● 動画や画像アーカイブを位置情報と連携させて活用する ことで、日本各地の風土や多様性を提示する機能 地域文化	✓	✓	✓	

C
 イメージ動画を
作成し、実証

検証の概要

		検証方法	対象者*	期間
①	<ul style="list-style-type: none"> ● 主要ニュースについて、NHKの豊富なアーカイブを活用し類似ニュースの“まとめ”とは違う多角的視点を提示 	A アプリ・サイトを作成し、実際のサービスに近い感覚で実証 （数日使っていただき、その後にアンケートを実施）	1,409人	4月28日 ～5月2日
②	<ul style="list-style-type: none"> ● 話題となっているコンテンツについて、通常のレコメンドの範囲とは違う幅やジャンルの多角的視点を提示 			
③	<ul style="list-style-type: none"> ● 最新ニュースについて、SNSでの盛り上がり进行分析し、分断やスパムを検知し、信頼性の課題等をアラート 	B Aとは別にサービスイメージを個々に提示し、実証 （一定時間使っていただき、その後にアンケートを実施）	293人	4月22日 ～28日
④	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害報道の情報を蓄積して、地図上に可視化し、危険予測・判断材料を提供 		298人	4月22日 ～28日
⑤	<ul style="list-style-type: none"> ● あるニュースのテーマについて、各都道府県での差異を地図などで同時に提示し、日本の多様性を提示 		289人	4月27日 ～5月6日
⑥	<ul style="list-style-type: none"> ● 多くの動画ニュースが一目でわかると共に、重要度や新着順などに応じて適切に自動編集、連続再生する機能 		259人	4月22日～ 27日
⑦	<ul style="list-style-type: none"> ● 動画や画像アーカイブを位置情報と連携させて活用することで、日本各地の風土や多様性を提示する機能 		587人	4月28日～ 5月6日
			C イメージ動画を通じて体験いただき、実証（事後アンケート）	

*対象者の人数については、実証実験に参加し、検証調査に回答した有効対象者数を記載。③～⑥に複数参加の対象者がいるため、総計は3000人を超えている。

「社会実証」の評価

各サービスで提供した機能の評価

社会実証のサービス①

発表時資料から

NEWS WEB
・NHK+

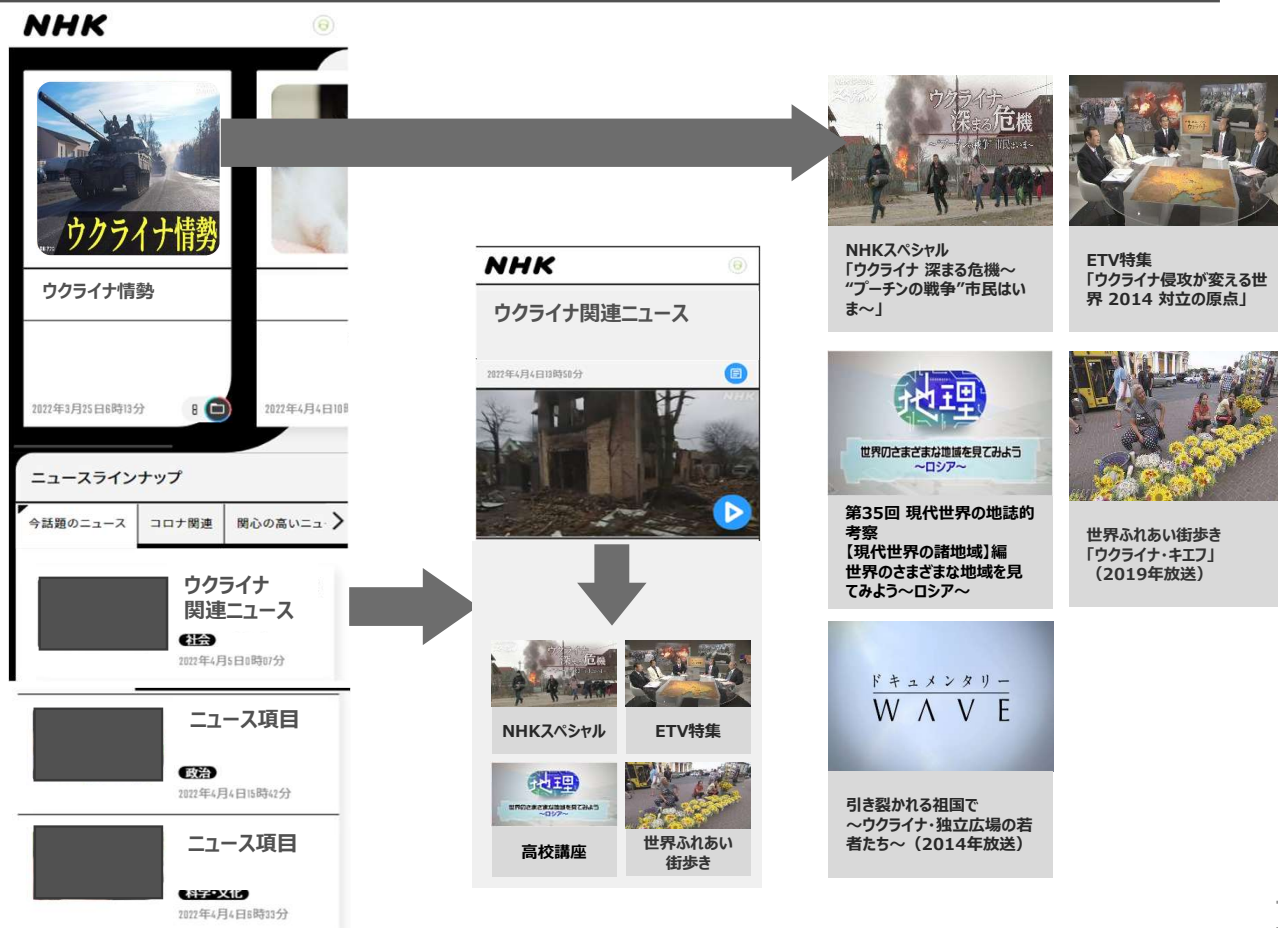
「知識が広がり、つながる」

「簡単に、必要な情報が見つかる」

NHK

国民生活に深く関わる主要ニュースについて、NHKの豊富なアーカイブ映像、最新の海外や地域の情報などを組み合わせ、一覧性のあるビジュアルで提示し、多角的な視点からの広く、深みのある理解につなげる。

- 類似のまとめサイトなどとは違う、NHKならではの、歴史をふまえた、多角的で深い視点を提示する。
- (ウクライナであれば、キーウの美しい街並み紹介や過去の歴史番組等も)



ネットで話題となったテーマについて、NHKの幅広いジャンルのコンテンツを組み合わせ提示し、多角的な視点から、楽しみながら学びや共感につなげる

ネットで人気に！

#GWは大掃除

「3日でお部屋スッキリ! リバウンドしない片づけ術&模様替え」

初回放送日: 2021年4月26日

大型連休中やってみよう! わずか3日でお部屋をスッキリ片づけ術もう二度と散らからない! プロが教えるコツは「一軒まるごと片づける」▽家事が楽に 家族も喜ぶ収納方法▽いま注目の“はがせる”壁紙を使って寝室が極上の癒やし空間に大変身▽おでかけレポート「伝統の線香花火づくり 福岡県みやま市」▽みんな! コハンだよ「中華風 蒸しロールキャベツ」【ゲスト】大島美幸【キャスター】博多華丸・大吉、鈴木奈穂子



見逃し配信



「愛(め)でたいニッポン 東京」

初回放送日: 2022年3月31日

愛(め)でたいニッポン 東京▽尾上菊之助が



「新生活に注目! 今どきのトランクルーム&再婚活」

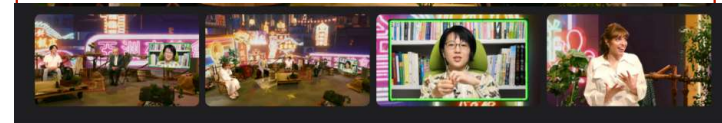
初回放送日: 2022年3月30日

コンテナだけじゃない! ビル一棟1200室の

“片づけ術”の詳細

大切なものを見つめ直す

人間関係、家族、愛



「恋愛がめんどくさいワケ」



もしかして、“ケアラー”? (後編) ~孤立しないためのヒントとは~



“大型連休”のお掃除術から、人間関係、自分の見つめなおしという深みのある問いまで、NHKならではの幅の広いテーマでの“レコメンド”を行う。サービス案①と同じように、全体が一目でわかるビジュアルとすることで、偶発的な“思わぬテーマとの出会い”を提供する。

「多角的視点での提供」「分野を超えた提供」どちらの機能も、**約7割**が社会全体・自分いずれにも有用と評価
特にネット上の課題に対する問題意識が高い層を中心に機能の有用性を評価する声が多い。

問題意識	<ul style="list-style-type: none"> ● 最新の重要なニュースについて、必要な情報がまとまった形で掲載されておらず、問題の構造や因果関係、背景情報などの把握や、得られた情報の「正しさ」や「信頼性」、「重要性」、「新しさ」を判断することが難しい ● 話題となっているコンテンツについて、より知りたいことが生まれても、検索する手間等の情報にアクセスすることへのハードルがある状態
目指すこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 重要ニュースを、豊富なアーカイブを活用した多角的視点で提示し、問題の構造を知る手助けや、特定のテーマでの更なる深掘りを支援することで、新たな情報や関連するテーマへのつながりを知るなど、利用者自身が「気づき」を得られることを目指す ● 話題のテーマに関連するコンテンツをジャンルを超えて紐づけ、情報を提供することで、利用者が楽しみながら深く学び、視野を広げることを目指す



		対象者による評価	
		社会にとって有用※	自分にとって有用※
サービス内の 主な機能	「多角的視点での提供」機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体の77.3%が有用と回答 ● 問題意識が高く、ネット活用度が低い層の85.1%、問題意識もネット活用度も高い層の80.3%が有用と回答 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体の74.9%が有用と回答 ● 問題意識が高く、ネット活用度が低い層の84.6%が有用と回答
	「分野を超えた提供」機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体の75.6%が有用と回答 ● 問題意識が高く、ネット活用度が低い層では82.2%にのぼった 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体の69.8%が有用と回答 ● 問題意識が高く、ネット活用度が低い層の75.5%、問題意識が低く、ネット活用度も低い層の70.4%が有用と回答

* : 「役に立つと思う」と「どちらかと言えば役に立つと思う」の回答を有用と定義

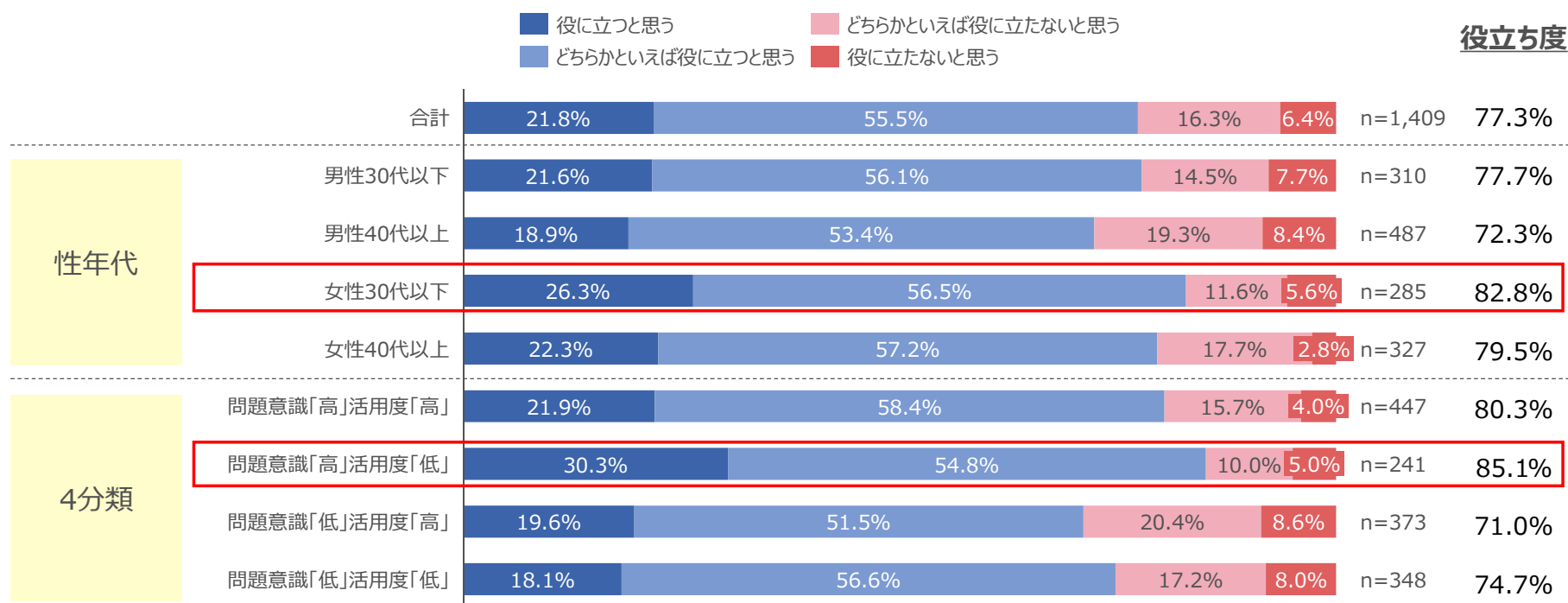
(詳細) サービス①評価：社会全体にとって有用か

NEWS WEB
・NHK+

NHK

- 実証対象（「テレビを全く/ほとんど見ない方々」）の約8割が、社会全体にとって役に立つと回答。
- 性年代別では女性30代以下で、4分類別では問題意識「高」活用度「低」で高い。

「多角的視点での提供」機能への評価 社会全体にとって



Q. 今回の社会実証サイト・アプリでは、主要なニュースに関連したニュースや番組を多角的な視点でまとめて提示しました。この機能はこれまでに触れた「あるニュースやテーマについて、信頼のおける情報や幅広い情報などを調べ出すことが難しい」という問題を解決するのに役立つと思いますか。（単一回答）

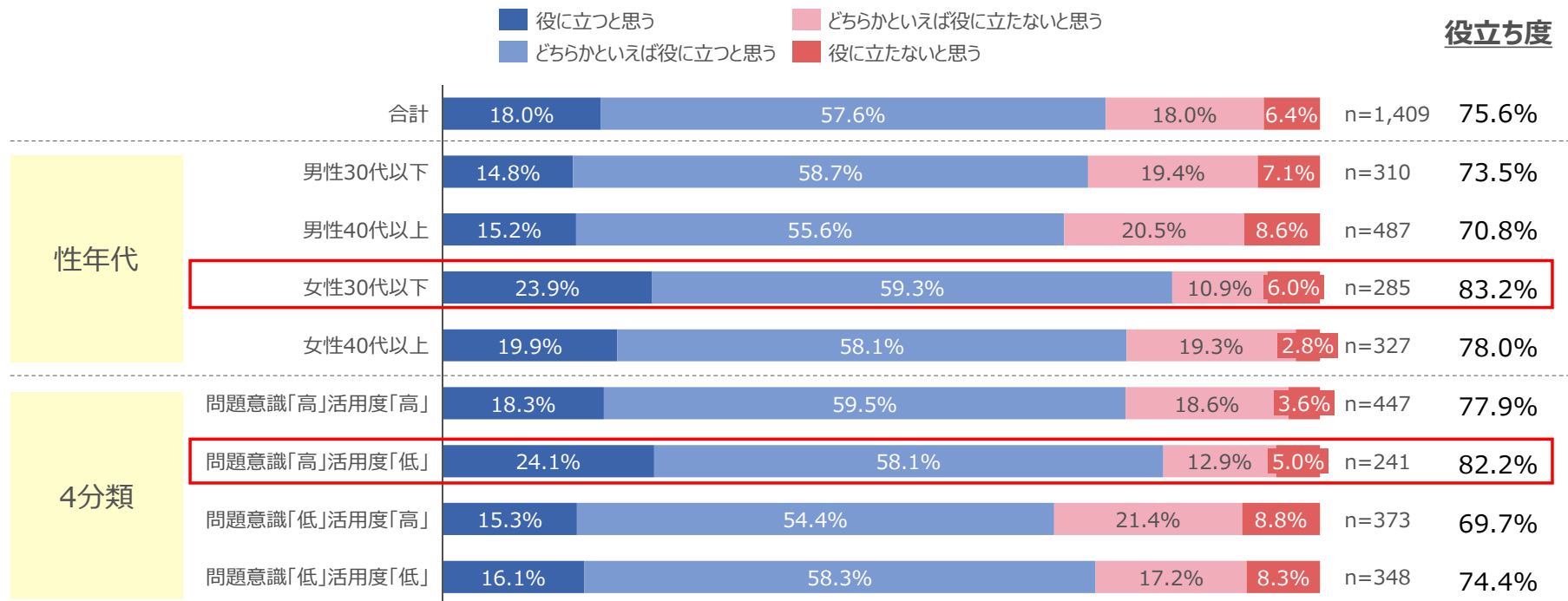
(詳細) サービス②評価：社会全体にとって有用か

NEWS WEB
・NHK+

NHK

- 実証対象（「テレビを全く/ほとんど見ない方々」）の約76%が、社会全体にとって役に立つと回答。
- 性年代別では女性30代以下で、4分類別では問題意識「高」活用度「低」で高い。

「分野を超えた提供」機能への評価 社会全体にとって



Q. 今回の社会実証サイト・アプリでは、話題のテーマについて、関連の番組を幅広く、分野を超えて提供しました。この機能はこれまでも触れた「知識の幅が狭まる、情報への理解が浅くなる」という問題を解決するのに役に立つと思いますか。（単一回答）

(詳細) サービス①②評価：課題が解決されるか

NEWS WEB
・NHK+

NHK

- いずれの問題意識においても、7割以上の人々が問題と感じ、そのうちの6割以上の人々が、サービスで解決可能と回答した。

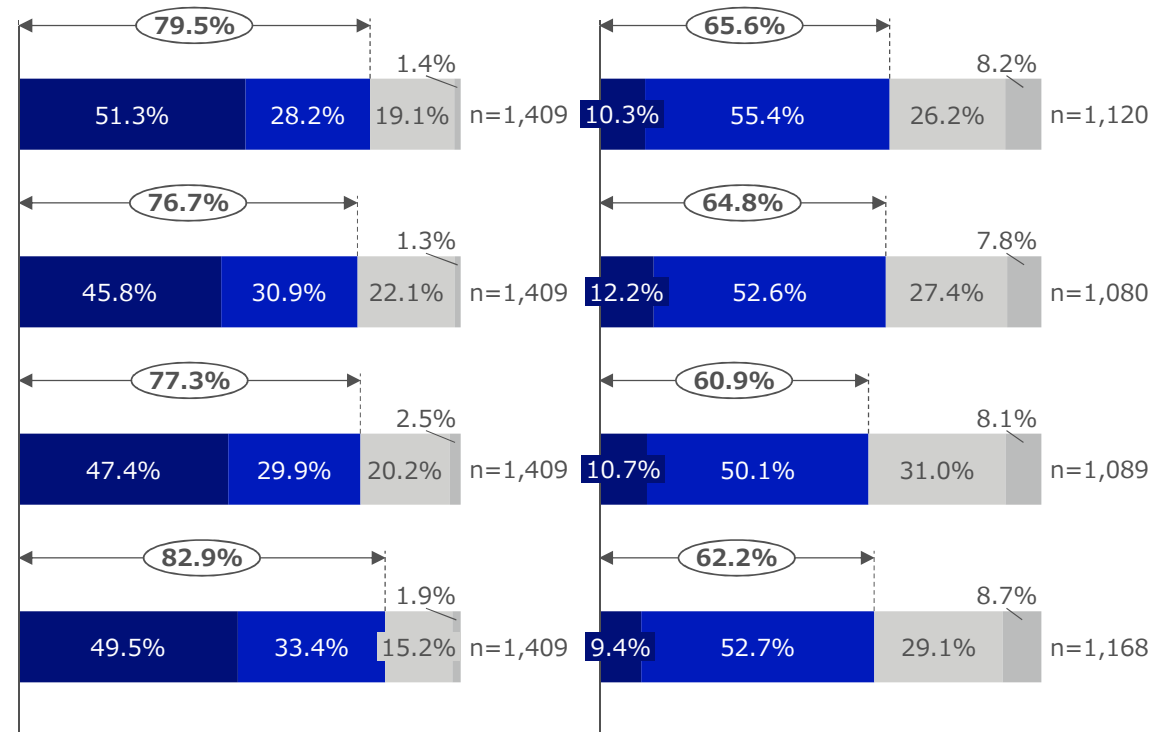
問題意識を保有する人の割合

- 社会にとって問題であり、対処の必要がある
- 問題だとは思いますが、特に対処の必要性は感じない
- 特に問題だと思わない
- どのようなことを言っているか、よく理解できない

サービスによって 解決可能と考える人の割合*

- 解決できると思う
- どちらかといえば解決できると思う
- どちらかといえば解決できないと思う
- 解決できないと思う

- ① ● 背景や因果関係などについて、信頼のおける情報、最新の情報、重要な情報をうまく自分で見つけ出すことが難しい
- ② ● 多角的視点（さまざまな角度からのものの見方）からの幅広い情報を見つけることが難しい
- ③ ● 個人の検索能力などに大きく依存しており、情報リテラシによって獲得できる情報に格差がある
- ④ ● 検索スキルがない人、検索することが面倒だと感じる人では、知識の幅が狭くなる、情報の理解が浅くなる恐れがある



Q.あなたは、以下のような【問題意識】について、どのように思いますか。あてはまるものをお知らせください。（単一回答）

Q.あなたは、今回利用した社会実証実験のサービスを通して、以下の問題意識を解決することができますか。（単一回答）

出所) 社会実証調査（2022年4月実施）

*母数：「社会にとって問題であり、対処の必要がある」「問題だとは思いますが、特に対処の必要性は感じない」と回答した人

社会実証のサービス③

発表時資料から

フェイクアラート

「正しく理解が深まり、気付く」

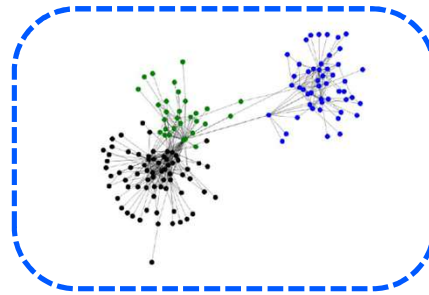
NHK

- ネット上の盛り上がりの「歪み」に留意が必要なニュースにマーク **意見の分断に注意** **少数の大きな声に注意** **見せかけのトレンドに注意** をつけて注意喚起する。
- それぞれのマークをクリックすると、「意見が大きく分かれている」「少数の人が大量のツイートを行っている」等が分かる図表が提示される。これらにより、フェイクニュース等の課題に対し、利用者自身が気づきを得られることをめざす。

クリックによる画面遷移

意見分断に注意

今回収集したツイートを、ネットワーククラスタリングの手法を用いて分類しました。



このトピックでは意見の分極化がみられます。一部の意見のみに左右されることがなく、幅広い意見を参考にしながらニュースを見るようにしましょう。

意見の分断状況を可視化

SNS投稿の分析による注意喚起

見せかけのトレンドに注意

今回収集したツイートにおいて、フォロー数10未満のアカウントによる投稿数の割合が大きいほど、スパムアカウントによる投稿数の割合があります。

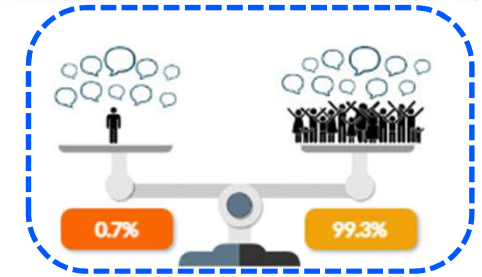


このニュースでは一部のクラスターではフォロワー数10以下のアカウント割合が大きい傾向がみられます。少数意見に左右されないように注意する必要があります。

※分析内容はイメージです

少数の大きな声に注意

今回収集したツイートにおいて、全体の半分のツイートを何パーセントのアカウントが行っているのか(※値が小さいほど、一部のアカウントが拡散していることを意味します)



このニュースでは一部のクラスターで一部の少数アカウントが活発に意見の拡散をおこなっています。国民共通の話題ですが、一部の情報に左右されないように念のためご注意ください。

少数のアカウントが拡散している状況を可視化

信頼性の低いアカウントの数とそれらによる投稿数を可視化

計算社会科学を専門として、インフォメーションヘルスを提唱している東京大学大学院工学系研究科 鳥海不二夫教授、最先端のAI技術とそれらの社会応用に深い知見を持つ東京大学大学院鳥海研究室発AIベンチャー TDAI Lab、NHKの三者による、「公共放送コンテンツのオンライン配信を通じた健全な情報空間の形成に関する共同研究」で開発



TDAI Lab

NHK

「アラート機能」ほかすべての機能に、**7割以上**が社会・自分にとって有用と評価。

問題意識	<ul style="list-style-type: none"> ● インターネット上には情報が多く、閲覧回数の多いものや個人の履歴などからレコメンドされて視聴する形態が浸透 ● 一方、偏ったものしか見られない(フィルターバブル)、同様なものばかり見て偏る(エコーチェンバー)などの影響を強く受けると、フェイクニュースに引っ掛かったり、社会的分断が起きることが指摘されている
目指すこと	<ul style="list-style-type: none"> ● ネット上の盛り上がりの「歪み」に留意が必要なニュースにマークをつけて注意喚起する ● 各マークをクリックすると、「意見が大きく分かれている」「少数の人が大量のツイートを行っている」等を示す図表が提示される。フェイクニュース等の課題に対し、利用者自身が気づきを得られることを目指す



		対象者による評価	
		社会にとって有用	自分にとって有用
サービス内の 主な機能	アラート機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 71.3%が有用と回答 ● 問題意識もネット活用度も低い層で、有用と回答した人の割合が最も高く、80.3%にのぼった 	<ul style="list-style-type: none"> ● 72.0%が有用と回答 ● 問題意識もネット活用度も低い層の77%が有用と回答
	詳細グラフ機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 72.8%が有用と回答 ● 問題意識もネット活用度も低い層で、有用と回答した人の割合が最も高く、81.3%にのぼった 	<ul style="list-style-type: none"> ● 74.9%が有用と回答 ● 問題意識もネット活用度も低い層で、有用と回答した人の割合が最も高く、87.5%にのぼった
	トレンドの話題を 知る機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 75.8%が有用と回答 ● 問題意識が高く、ネット活用度は低い層で、有用と回答した人の割合が最も高く、79.5%にのぼった 	<ul style="list-style-type: none"> ● 73.7%が有用と回答

(詳細) サービス③評価：社会にとって有用か

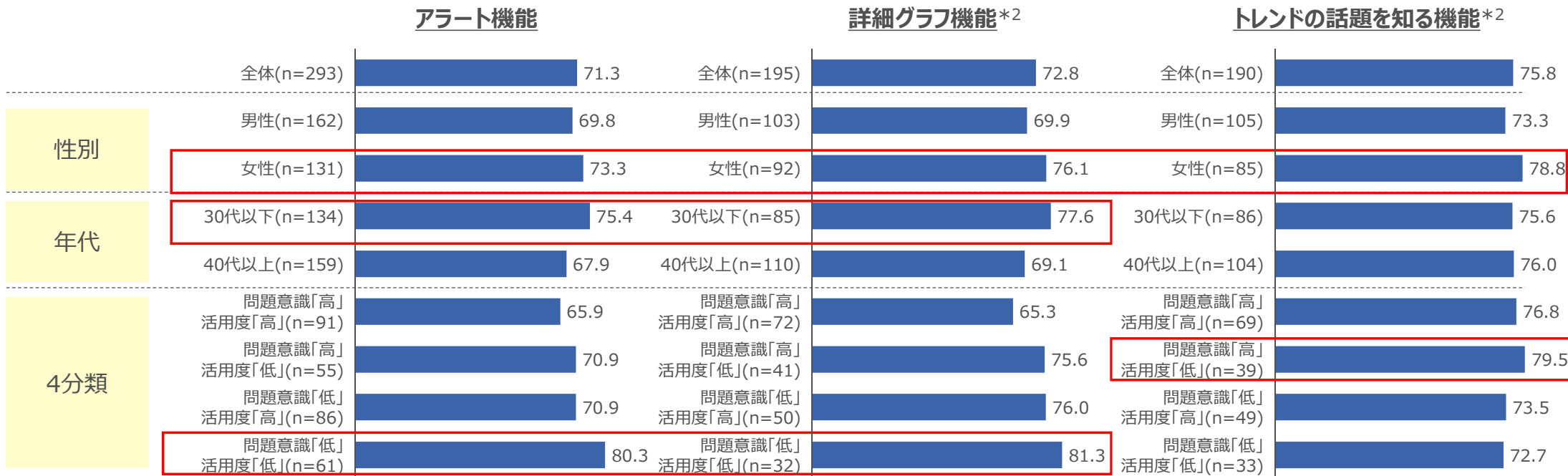
フェイクアラート



- アラート機能は全体の71.3%、詳細グラフ機能は利用者の72.8%、トレンドの話題を知る機能は利用者の75.8%が社会にとって役に立つと回答。
- 3つの機能共通して特に、女性が高い。また、アラート機能、詳細グラフ機能は30代以下の若者、問題意識「低」活用度「低」、トレンドの話題を知る機能については問題意識「高」活用度「低」が高い。

社会全体にとって役に立つか (%) * *:「役に立つと思う」+「どちらかという役に立つと思う」

*母数：各機能利用者



Q. 「ネット上の盛り上がり」に留意が必要なニュースに対して、以下のようなアラートマークが出る機能」は、フェイクニュース（偽の情報）や社会的分断などの問題を解決するのに役に立つと思いますか。（単一回答）

Q. 「意見の分断などを詳細グラフで示す機能」は、フェイクニュース（偽の情報）や社会的分断などの問題を解決するのに役に立つと思いますか。（単一回答）

Q. ある話題について、大きな分断や偏りなどがなく、多くの人たちが純粋に楽しんでいたりすることを知らることは、社会にとって有用だと思いますか。（単一回答）

出所) 社会実証調査 (2022年4月実施)

(詳細) サービス③評価：課題が解決されるか

フェイクアラート

NHK

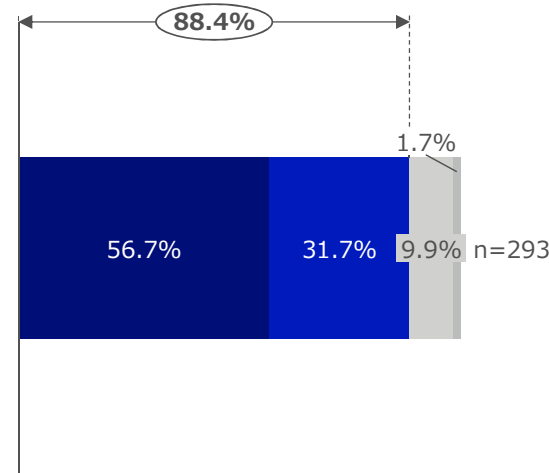
- 社会的分断等の問題意識について、約9割が問題と感じ、そのうちの約半数が、本サービスで解決可能と回答した。
(なお、「気づき」が主たる目的のサービスとなっている)

問題意識

- フィルターバブルやエコーチェンバー、フェイクニュース、社会的分断等が起きる

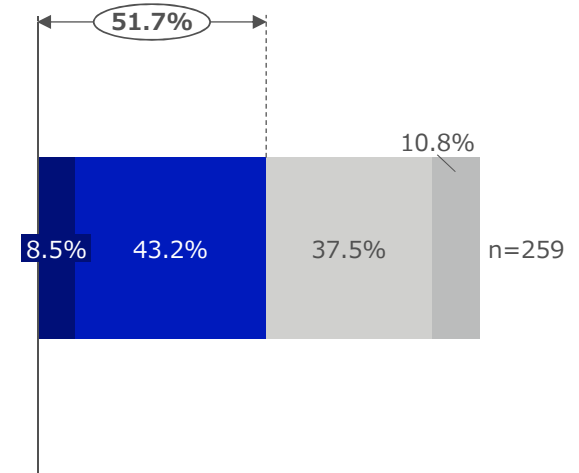
問題意識を保有する人の割合

- 社会にとって問題であり、対処の必要がある
- 問題だとは思いますが、特に対処の必要性は感じない
- 特に問題だと思わない
- どのようなことを言っているか、よく理解できない



サービスによって解決可能と考える人の割合*

- 解決できると思う
- どちらかといえば解決できると思う
- どちらかといえば解決できないと思う
- 解決できないと思う



Q.あなたは、以下のような【問題意識】について、どのように思いますか。あてはまるものをお知らせください。(単一回答)

Q.あなたは、今回利用した社会実証実験のサービスを通して、以下の問題意識を解決することができますか。(単一回答)

出所) 社会実証調査(2022年4月実施) *母数:「社会にとって問題であり、対処の必要がある」「問題だとは思いますが、特に対処の必要性は感じない」と回答した人

社会実証のサービス④

発表時資料から

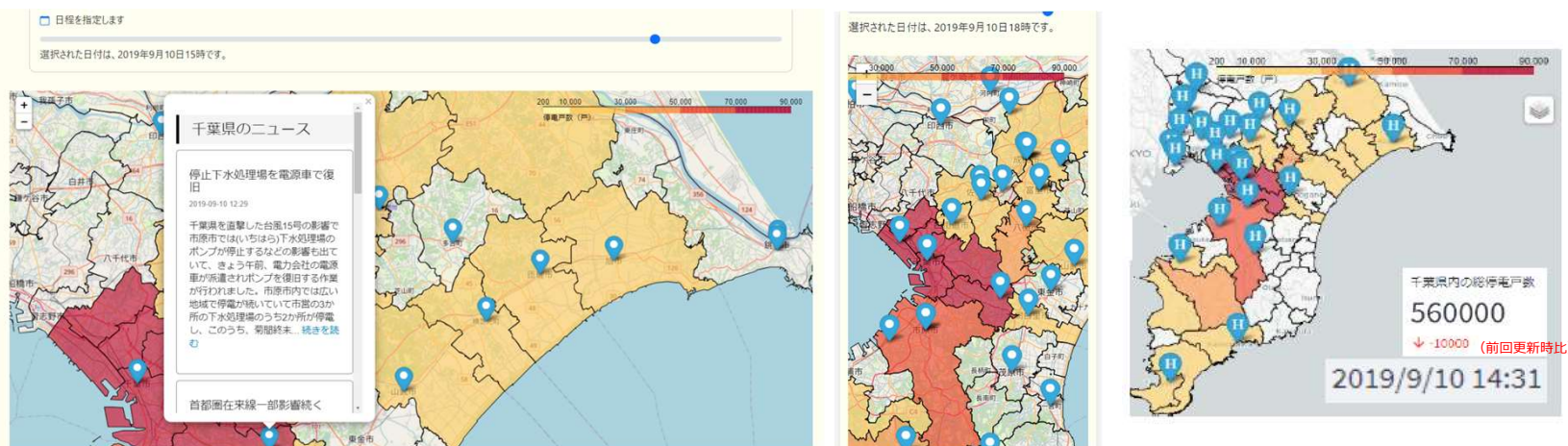
災害マップ

「知識が広がり、つながる」

「簡単に、必要な情報が見つかる」

NHK

災害報道内容を地図上に蓄積して可視化することで、実際に発生しているとみられる被害の推定や判断材料を提供し、防災・減災の行動に役立てていただく機能



- 時間のスライダーを動かすと、警報の地域がどのように広がっていくか、被害のニュースがどのように出されていくかが見られる
- 累積的に表示されるようになっており、どのように影響が拡大しているのかが分かる

- 災害時医療の情報収集に課題を感じ、集積データの可視化などに取り組まれている千葉大学大学院医学研究院 救急集中治療医学・千葉大学災害治療学研究所 中田孝明教授、救急医療支援サービスを展開するベンチャー Smart119、NHKによる、「救急集中治療・災害時情報共有プラットフォーム研究」を背景とする（「可視化」技術の応用）



Smart 119



「地図プロット機能」「時系列俯瞰（スライドバー）機能」に対し、**75%以上**が社会・自分にとって有用と評価。

問題意識	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害報道はリアルタイムでの報道が主軸であり、時系列での全体像の把握や、累積的・俯瞰的な情報の確認が難しい
目指すこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 過去の災害報道を地図上に蓄積することで、累積的・俯瞰的に、各地域のこれまでの被害の全容を理解、それらを踏まえた防災・減災に貢献する



		対象者による評価	
		社会にとって有用	自分にとって有用
サービス内の 主な機能	地図プロット機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 81.2%が有用と回答 ● 問題意識が高く、ネット活用度は低い層の有用と回答した人の割合は91.1%にのぼった 	<ul style="list-style-type: none"> ● 77.5%が有用と回答 ● 問題意識が低く、ネット活用度も低い層の有用と回答した人の割合は最も高く86.8%にのぼった
	スライドバー機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 85.9%が有用と回答 ● 問題意識が高く、ネット活用度は低い層や問題意識もネット活用度も低い層の有用と回答した人の割合は9割を超えた 	<ul style="list-style-type: none"> ● 82.4%が有用と回答 ● 問題意識が高く、ネット活用度は低い層の有用と回答した人の割合が最も高く89.7%にのぼった

(詳細) サービス④評価：社会にとって有用か

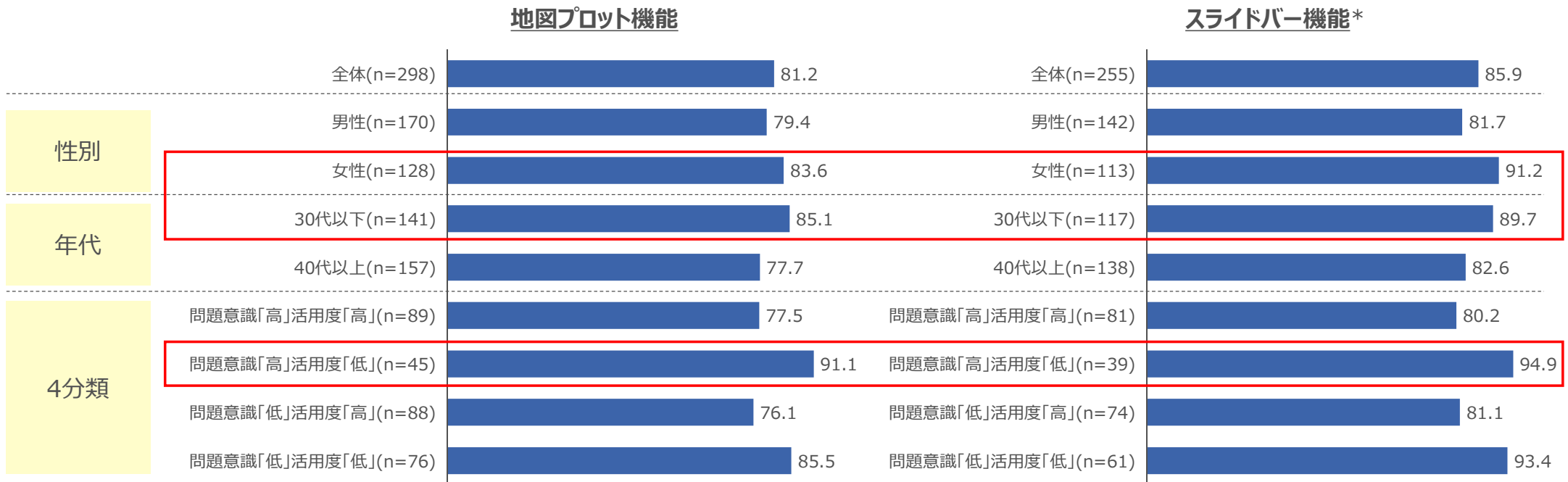
災害マップ

NHK

- 地図プロット機能は全体の81.2%、スライドバー機能は利用者の85.9%が社会にとって役に立つと回答。
- 特に30代以下の若年層や女性、問題意識「高」活用度「低」で高いところが特徴にある。

社会全体にとって役に立つか (%) * 「役に立つと思う」+「どちらかという役に立つと思う」

*母数：スライドバー機能利用者



Q.「報じられたニュースを、特定の地域の地図上にこれまでの推移や全体像に関する情報を可視化する(プロット)機能」は、防災・減災のために今後の対策を立てるのに役に立つと思いますか。(単一回答)

Q.「時間のスライドバーを動かして、停電の地域などがどのように広がっていくか、被害のニュースがどのように出されていくかを見る機能」は、防災・減災のために今後の対策を立てるのに役に立つと思いますか。(単一回答)

(詳細) サービス④評価：課題が解決されるか

災害マップ

NHK

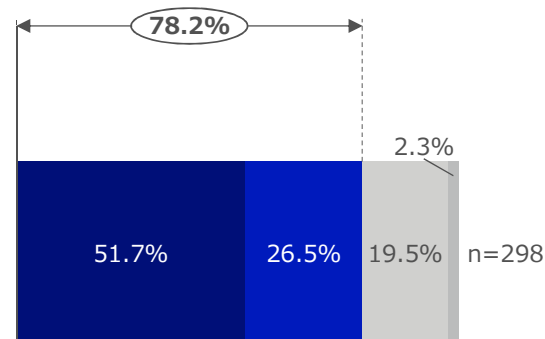
- 災害情報の全体像がわかりにくいという問題意識について約8割が問題と感じ、そのうちの6割以上がサービスで解決可能と回答した。

問題意識

- 災害情報について、これまでの推移、全体像がわかりにくく、今後の減災や防災に役立てにくい

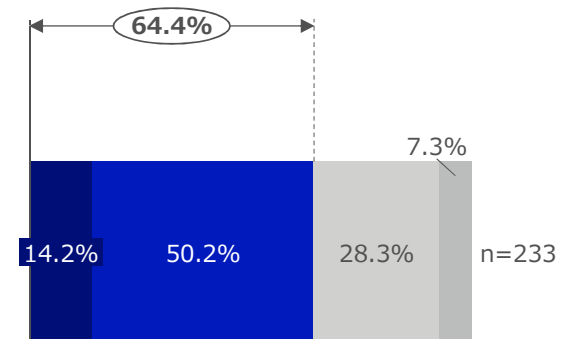
問題意識を保有する人の割合

- 社会にとって問題であり、対処の必要がある
- 問題だとは思いますが、特に対処の必要性は感じない
- 特に問題だと思わない
- どのようなことを言っているか、よく理解できない



サービスによって解決可能と考える人の割合*

- 解決できると思う
- どちらかといえば解決できると思う
- どちらかといえば解決できないと思う
- 解決できないと思う



Q.あなたは、以下のような【問題意識】について、どのように思いますか。あてはまるものをお知らせください。(単一回答)

Q.あなたは、今回利用した社会実証実験のサービスを通して、以下の問題意識を解決することができますか。(単一回答)

出所) 社会実証調査 (2022年4月実施) *母数: 「社会にとって問題であり、対処の必要がある」「問題だとは思いますが、特に対処の必要性は感じない」と回答した人

社会実証のサービス⑤

発表時資料から

地域ニュース

「正しく理解が深まり、気付く」

NHK

ニュースに関連して、様々な統計データなどについて都道府県ごとの違いを地図上などに示し、地域ごとの特性と全国的な多様性を視覚的に把握できるようにする機能

NEWS WEB 天気 動画 News Up 特集 スペシャルコンテンツ NEWS WEB EASY

社会 気象・災害 科学・文化 政治 ビジネス 国際 スポーツ 暮らし 地域

注目ワード ウクライナ情勢 ロシア 18歳 成人年齢引き下げ 新型コロナ 国内感染者数 新型コロナウイルス 事件 もっと見る

事故

あなたの天気・防災

ソーシャルランキング

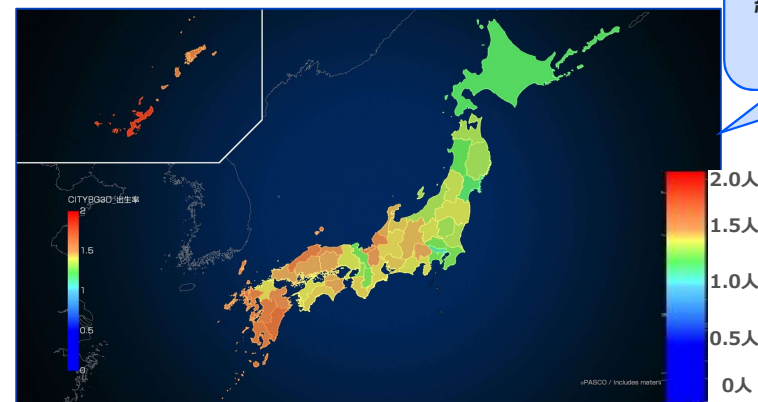
この2時間のツイートが多い記事です

- 東北新幹線 全線運転再開は4月14日にJR東日本発表
- 公明 山口代表「防衛費だけ突出 妥当ではない」慎重な姿勢示す
- 東京のコロナ感染者 増加傾向の専門家
- アルゼンチンアリ 大阪空港で大規模繁殖 電子機器に異常おそれる
- 【動画】魚をおいしそうにコソメカワウソの赤ちゃん三重 鳥羽

少子化や過疎化で公立小中学校など統廃合 3年間で全国430件超

2022年3月12日 11時41分

少子化や過疎化を背景に学校の小規模化が進み、この3年間に全国で公立の小中学校などが統廃合されたケースは430件を超えることが分かりました。



関連する全国各地の統計を視覚化・気づきを提供

2020年 合計特殊出生率
厚生労働省 令和2年(2020)人口動態統計(確定数)の概況

地図マークアイコンをクリックすると画面が表示

「少子化の全国的な動きのニュースと同時に見ることで、日本の多様な状況を想像してもらったり、深く調べていくことの入り口にする」

- あるテーマのニュースがあった場合に、各都道府県での違いを地図などで提示する
- 多様性、多面性を直感的に分かるようにすることで、“日本の多様性”への気づきを支援する

ニュースに関連し、様々な統計データの都道府県ごとの違いを地図上などに示す機能は、**75%以上**が社会・自分にとって有用と評価。

特に、課題に対する問題意識もネット活用度も低い層の**80%以上**においても、有用と評価。

<p>問題意識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● インターネットでは関心の集まる話題が Recommend されるため、人口の多い県、都市部のテーマが取り上げられ易い ● 一方、日本は多彩な地域からなり、同一テーマでも差異がある。それらを共有することは、他者のものの見方や多様性への理解が深まるという点で重要である
<p>目指すこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ニュースに関連して、都道府県での様々な違いを地図上などに示し、各地域の特性や全国的な多様性を視覚的に把握できるようにする ● 多様性・多面性を直感的に分かるようにすることで、“日本の多様性”への気付きを支援する



		対象者による評価	
		社会にとって有用	自分にとって有用
<p>サービス内の 主な機能</p>	<p>地図プロット機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体の79.7%が有用と回答 ● 問題意識もネット活用度も低い層の有用と回答した人の割合は最も高く87.7%にのぼった 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体の75.4%が有用と回答 ● 問題意識もネット活用度も低い層の有用と回答した人の割合は最も高く84.2%にのぼった

(詳細) サービス⑤評価：社会にとって有用か

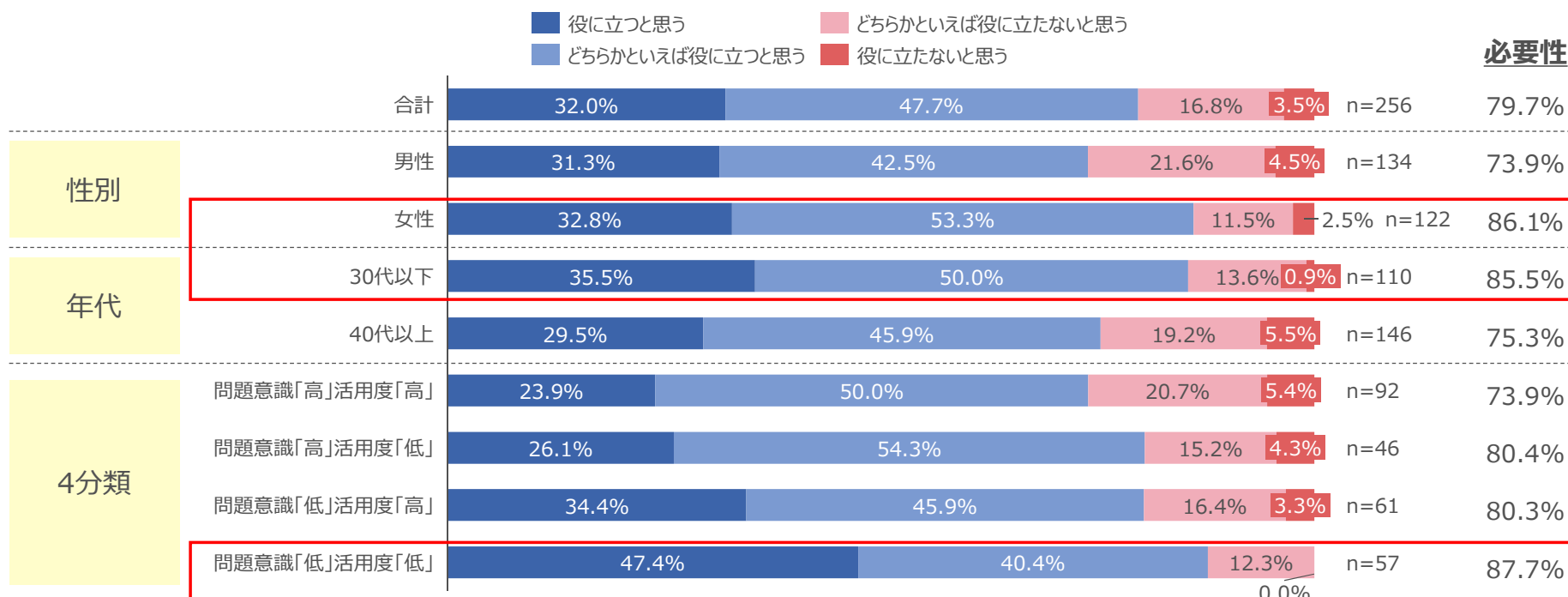
地域ニュース



- 地図プロット機能利用者の79.7%が社会にとって有用だと考えている。
- 特に女性や30代以下、問題意識「低」活用度「低」で高いところが特徴にある。

地図プロット機能の評価 社会全体にとって

※母数：機能利用者のみ



Q. 「あるテーマのニュースの各都道府県での状況を地図などで提示する機能」は、地域ごとの違いを直感的に理解し、日本全体での多様性があることへの理解・共感をもたらすのに役に立つと思いますか。
(単一回答)

出所) 社会実証調査 (2022年4月実施)

(詳細) サービス⑤評価：課題が解決されるか

地域ニュース

NHK

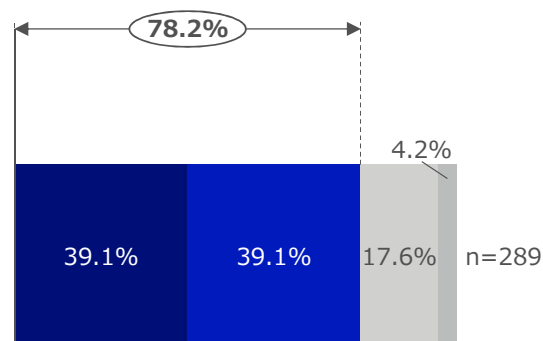
- 同一のテーマについて地域差が意識されづらいという問題意識について約8割が問題と感じ、そのうちの6割以上の方がサービスで解決可能と回答した。

問題意識

- 同一のテーマでも地域によって見方が異なるが、都市部のテーマばかり注目される傾向にある

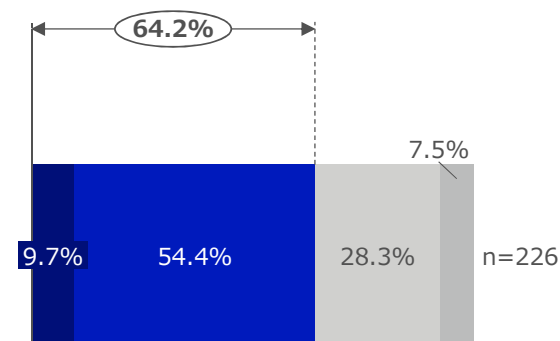
問題意識を保有する人の割合

- 社会にとって問題であり、対処の必要がある
- 問題だとは思いますが、特に対処の必要性は感じない
- 特に問題だと思わない
- どのようなことを言っているか、よく理解できない



サービスによって解決可能と考える人の割合*

- 解決できると思う
- どちらかといえば解決できると思う
- どちらかといえば解決できないと思う
- 解決できないと思う



Q.あなたは、以下のような【問題意識】について、どのように思いますか。あてはまるものをお知らせください。(単一回答)

Q.あなたは、今回利用した社会実証実験のサービスを通して、以下の問題意識を解決することができますか。(単一回答)

出所) 社会実証調査 (2022年4月実施)

*母数: 「社会にとって問題であり、対処の必要がある」「問題だとは思いますが、特に対処の必要性は感じない」と回答した人

社会実証のサービス⑥

発表時資料から

一望・連続再生

「知識が広がり、つながる」

「簡単に、必要な情報が見つかる」

NHK

最新のニュース映像をいつでも一覧で見ることができるようになるとともに、重要度や新着順などで優先順位をつけながら、24時間、最新情報をご覧いただける機能

1. ニュース映像が一目でわかる形で表示



2. ニュース映像を自動編集でつなげ、連続再生



特定ジャンルを
視聴

最新・重要な
ニュースを
自動でリスト化

クリックしなくても、
「とりあえずつけておく」だけで、
最新・重要なニュースを取得できる

N H K NEWS WEBのコンテンツを自動編集

- より“手軽”に、“一方的なレコメンドを避ける形”で、最新・重要なニュースを取得することができる



「ニュース一望」ほかすべての機能に対し、社会にとって有用とする人が**6割**を超える。
特に、問題意識・ネット活用度ともに低い層の**約8割**が有用と回答しているのが特徴。

問題意識	<ul style="list-style-type: none"> ● 細切れの情報が多いなかで、「自分で検索するのが面倒」・「ニュースを流しっぱなしで視聴したい」・「全体像が見えない」という人が多い ● 偏ったレコメンドへの懸念も指摘される
目指すこと	<ul style="list-style-type: none"> ● サイトに上げられた動画ニュースを、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な編集方針で一目でわかることが可能になる ・ 適切な編集方針で自動編集してつなげ、ずっと見ている／聞いていることが可能になる



		対象者による評価	
		社会にとって有用	自分にとって有用
サービス内の 主な機能	ニュース一望機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 64.1%が有用と回答 ● 問題意識もネット活用度も低い層の80.4%が有用と回答 	<ul style="list-style-type: none"> ● 55.6%が有用と回答
	連続再生機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 66.1%が有用と回答 ● 問題意識もネット活用度も低い層の78.6%が有用と回答 	<ul style="list-style-type: none"> ● 57.1%が有用と回答
	地域選択機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 73.3%が有用と回答 ● 問題意識もネット活用度も低い層の89.7%が有用と回答 	<ul style="list-style-type: none"> ● 65.7%が有用と回答 ● 問題意識もネット活用度も低い層の87.2%が有用と回答
	キーワード選択機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 77.1%が有用と回答 ● 問題意識もネット活用度も低い層の90.9%が有用と回答 	<ul style="list-style-type: none"> ● 73.7%が有用と回答 ● 問題意識もネット活用度も低い層の90.9%が有用と回答

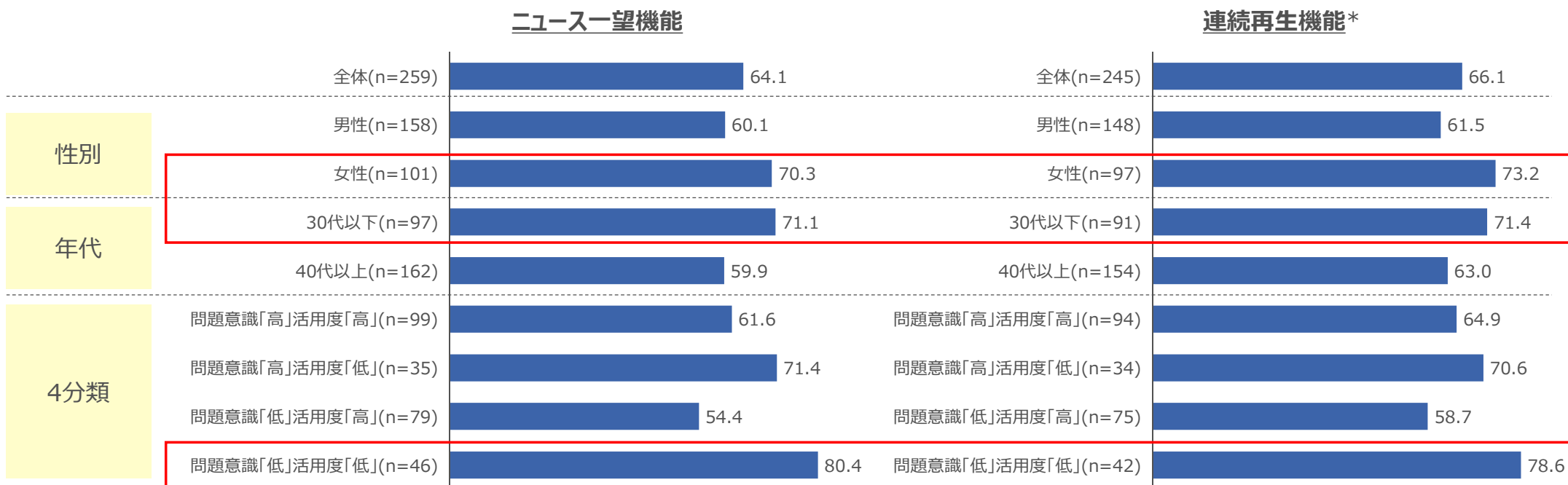
(詳細) サービス⑥評価：社会にとって有用か

一望・連続再生



- ニュース一望機能は全体の約6割、連続再生機能は利用者の6割強が社会にとって役に立つと回答。
- 特に30代以下の若年層や女性、問題意識「低」活用度「低」で高いところが特徴にある。

社会全体にとって役に立つか (%) * 「役に立つと思う」+「どちらかという役に立つと思う」



Q.重要度・新着順などの「適切な編集方針で主要ニュースを並べて一覧化できる機能」は、簡単に、必要な情報を見つけたり、社会の全体像を掴むのに役に立つと思いますか。(単一回答)
 Q.「主要ニュース一覧の中から気になるニュースをクリックし、そこから連続再生する機能」は、偏ることなく知識を広げつなげたり、社会の全体像を掴むのに役に立つと思いますか。(単一回答)

(詳細) サービス⑥評価：課題が解決されるか 一望・連続再生

- いずれの問題意識についても、約7割が問題と感じ、そのうちの約半数の人がサービスで解決可能と回答した。

問題意識

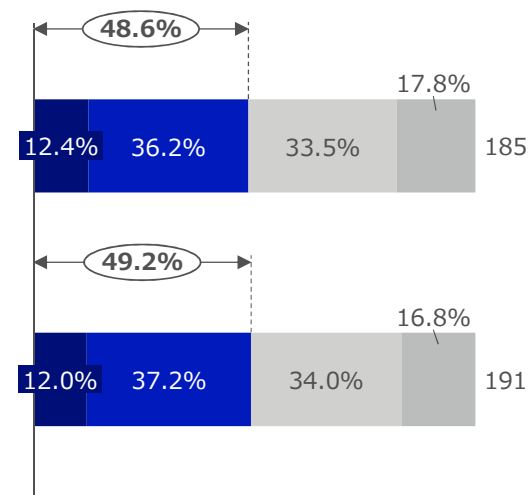
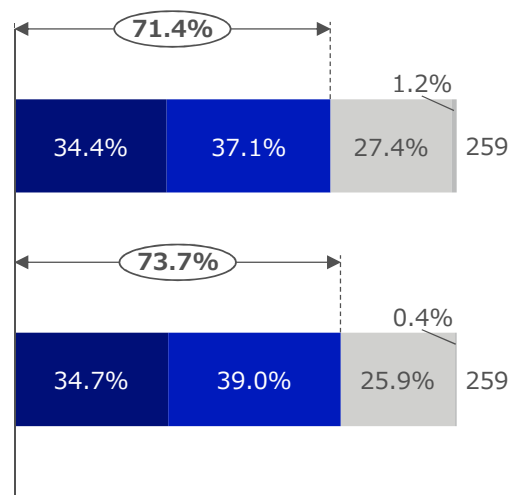
問題意識を保有する人の割合

サービスによって 解決可能と考える人の割合*

- ① 自身で検索してひとつずつ情報を見ていく必要があり、ニュースの全体像が見えない
- ② 偏ったレコメンドの連続になり、好きなジャンルのものばかり視聴してしまう

- 社会にとって問題であり、対処の必要がある
- 問題だとは思いますが、特に対処の必要性は感じない
- 特に問題だと思わない
- どのようなことを言っているか、よく理解できない

- 解決できると思う
- どちらかといえば解決できると思う
- どちらかといえば解決できないと思う
- 解決できないと思う



Q.あなたは、以下のような【問題意識】について、どのように思いますか。あてはまるものをお知らせください。(単一回答)
 Q.あなたは、今回利用した社会実証実験のサービスを通して、以下の問題意識を解決することができますか。(単一回答)

出所) 社会実証調査 (2022年4月実施) *母数: 「社会にとって問題であり、対処の必要がある」「問題だとは思いますが、特に対処の必要性は感じない」と回答した人

社会実証のサービス⑦

発表時資料から

地域文化

「正しく理解が深まり、気付く」

「知識が広がり、つながる」

「簡単に、必要な情報が見つかる」

NHK

日本の各地域の魅力をより深く理解してもらうために、ユーザーのスマホの位置情報と、動画・アーカイブ映像の位置情報を連動させ、旅行に行った際などに歴史や文化、風土などをより深く発見・理解・共有してもらう。

- スマホなどを活用して、**現在位置（地図）と連携した過去や現在の映像視聴・共有・投稿**ができるようにする
- その結果、以下のようなことを提供する：
 - ① **発見**：自分の立っている位置、あるいはどこかの地点を起点に、ニュースやドラマ、教育などのアーカイブ映像を再生
 - ② **理解**：街歩きロケの追体験（住民とのふれあいや訪問）などを通じ、**現地の風俗・背景を理解しつつ今の状況を知る**
 - ③ **共有**：現地で見聞きした内容を動画やテキストでネットにアップし、シェアなどを通じて域外へ発信する

NHKアーカイブスの地域検索による地図情報とコンテンツのマッピング

「位置（距離）」
「時間（過去・現在・未来）」
「キーワード」を軸に、コンテンツをつなぐ

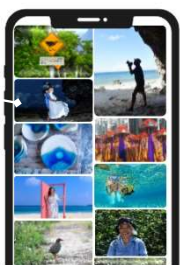
検討中の機能



沖縄県・国頭村（くにがみそん）での旅から～

「旅行などで地域に訪れた若者」「地域を盛り上げたい地元の若者」を中心に利用の広がり期待

①発見



プロの視点で制作された
NHKの番組アーカイブス

様々な人によって撮られた
現地のリアル映像

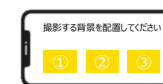
訪れた地点に関連付けられた、多彩な番組アーカイブ映像・情報を提供。
単なる「観光映像」でない深み、気づき生まれる
(多面的視点の科学・紀行番組、過去の時点の心情まで描いたドラマ等)

②理解

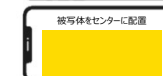


得た情報をもとに現地での体験や交流を楽しみ、より理解が深まる

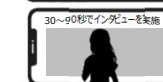
③共有



簡単に高品質な映像が撮れる機能などを提供



投稿時に日時／場所／キーワード／関連番組情報等をタグ付



投稿した映像をテレビや地元の道の駅などでも共有

現地の体験映像を新たに投稿することを通じ、関連番組・情報も紐づけされた形で、他の人の「発見」につながり、現地の人にも別の気づきとして提供される

サービスを構成する、「発見」・「理解」・「共有」それぞれの機能について、社会にとって有用とする人が**7割近く**に（自分にとって有用であることを大きく上回る“公共性”）。

問題意識	<ul style="list-style-type: none"> ● 商業化を前提にしたパーソナライズ化も進み、日本全体や各地域の状況・風土を「偏りなく、正しく」知る、気づくことは、意識しないとかがえって難しくなっている
目指すこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本の各地域の魅力をより深く理解してもらうため、ユーザーのスマホの位置情報と、動画・アーカイブ映像の位置情報を連動させ、旅行に行った際などに歴史や文化、風土などをより深く発見・理解・共有してもらう



		対象者による評価	
		社会にとって有用	自分にとって有用
サービス内の 主な機能	発見機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体の68.8%が有用と回答 ● 問題意識が高いがネット活用度が低い層：76.9% 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体の59.1%が有用と回答
	理解機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体の69.2%が有用と回答 ● ネット活用度が低い層：70.0%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体の59.8%が有用と回答
	共有機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体の66.1%が有用と回答 ● 問題意識が高いがネット活用度が低い層：73.1% 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体の51.8%が有用と回答

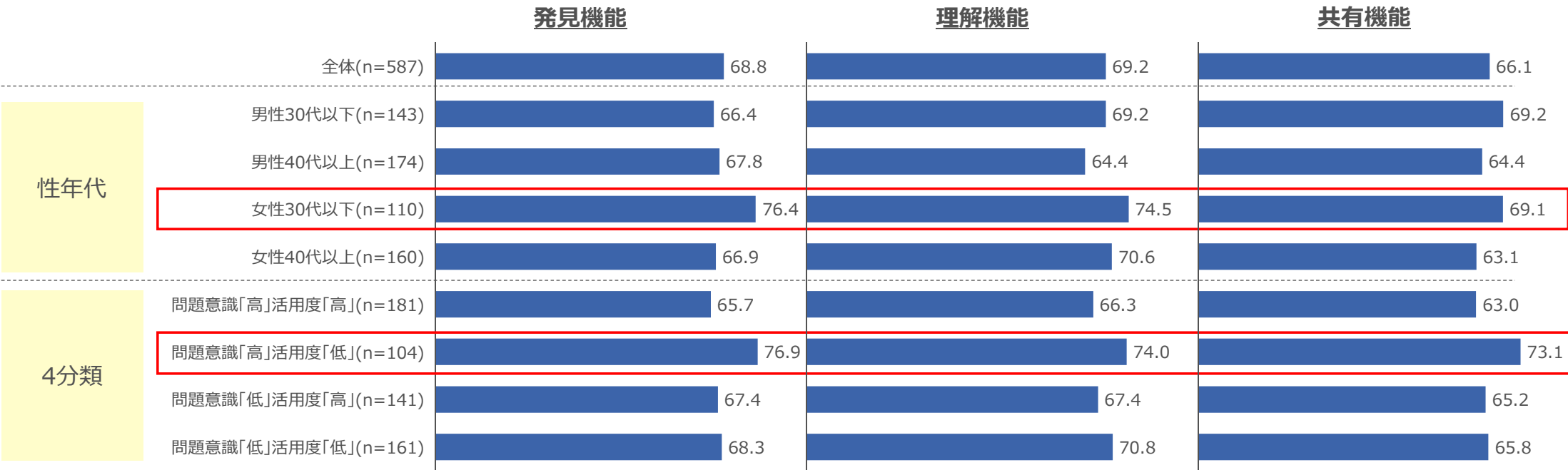
(詳細) サービス⑦評価：社会にとって有用か

地域文化

NHK

- いずれの機能も約7割が社会にとって役に立つと回答。女性30代以下、問題意識「高」活用度「低」が多い。

社会全体にとって役に立つか (%) * 「役に立つと思う」+「どちらかという役に立つと思う」



Q. 「自分が今いる位置、あるいはどこかの地点を起点に、ニュースやドラマ、教育などのアーカイブ映像を再生する機能」は、日本各地の風土や多様性への気付き・再発見を促進することに役に立つと思いますか。(単一回答)
 「自分が今いる位置に関連するNHKの街歩き番組・ドラマのシーンなどを追体験することで、現地の文化・風俗・歴史を知ることができる機能」は、日本各地の風土や多様性への気付き・再発見を促進することに役に立つと思いますか。(単一回答)
 「現地での見聞きした内容を動画やテキストでネットにアップし、シェアなどを通じて他の地域へ発信する機能」は、日本各地の風土や多様性への気付き・再発見を促進することに役に立つと思いますか。(単一回答)

出所) 社会実証調査 (2022年4月実施)

(詳細) サービス⑦評価：課題が解決されるか

地域文化

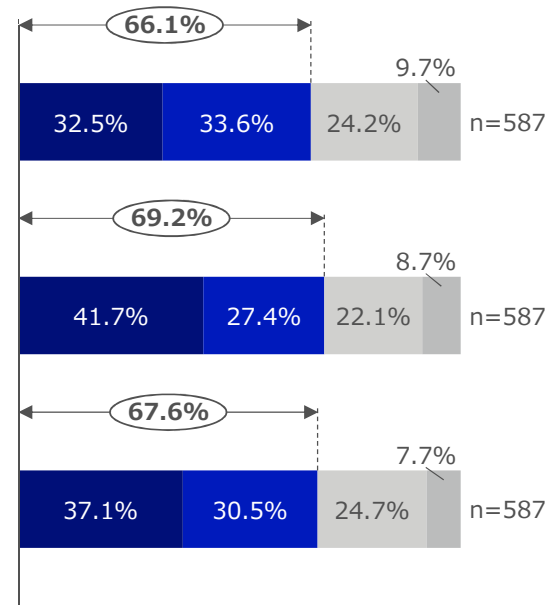
NHK

- いずれの課題についても、約7割が問題と感じている。地域の状況を正しく知るについては6割弱の人が、それ以外については約半数の人がサービスで解決可能と回答した。

- ① ● インターネット情報のパーソナライズ化のため、日本全体や各地域の状況・風土を「偏りなく、正しく」知ることが難しい
- ② ● 日本全体や各地域への理解不足や思い込み、偏った報道によって、都市と地方の対立構図が生まれてしまう
- ③ ● 世代によって使用するメディア・デバイスが異なるため、世代間の交流を通じた情報・文化の継承が行えていない

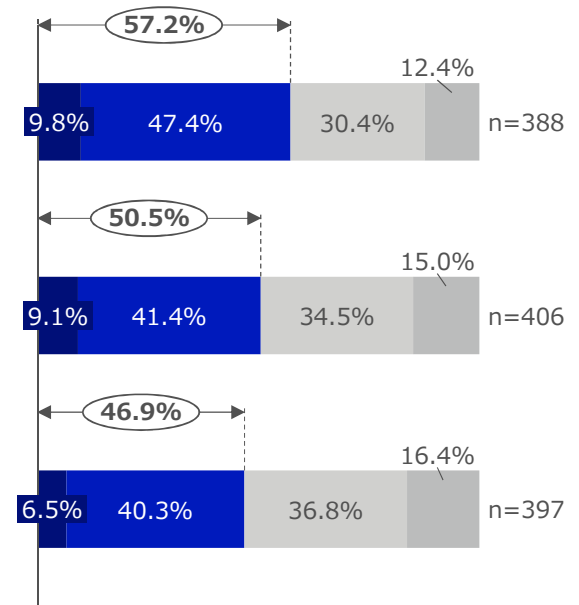
問題意識を保有する人の割合

- 社会にとって問題であり、対処の必要がある
- 問題だとは思いますが、特に対処の必要性は感じない
- 特に問題だと思わない
- どのようなことを言っているか、よく理解できない



サービスによって解決可能と考える人の割合*

- 解決できると思う
- どちらかといえば解決できると思う
- どちらかといえば解決できないと思う
- 解決できないと思う



Q.あなたは、以下のような【問題意識】について、どのように思いますか。あてはまるものをお知らせください。(単一回答)
 Q.あなたは、今回利用した社会実証実験のサービスを通して、以下の問題意識を解決することができますか。(単一回答)

出所) 社会実証調査 (2022年4月実施) *母数: 「社会にとって問題であり、対処の必要がある」「問題だとは思いますが、特に対処の必要性は感じない」と回答した人

(参考) 定性調査

サービス③については大学生を対象に、サービス⑦については沖縄県の「道の駅」において、定性的な調査を実施した。

サービス③「フェイクアラート」～都内私立大学大学生対象
(中央大学・安野教授研究室協力：約200サンプル)

- 大学生について、アラート表示を行った対象群において、**情報の偏りに気づく等の効果**が認められた

サービス⑦「地域文化」～沖縄県国頭村の「道の駅」来訪者
(14サンプル)

- **多数の方から肯定的評価**をいただき、旅行者・地元の発信者・ネット利用のない方の立場からの意見が得られた

事後調査	サービスへの評価	<ul style="list-style-type: none"> • 実験後、アラートの提示によって、ユーザーが情報の偏りに気づくことを促進する効果が認められた • クリックをしていなくても、課題解決に資することについて相対的に評価が高い • 文字だけでも有効だが、グラフがあるとより効果的 <ul style="list-style-type: none"> ➢ ただし、グラフをクリックしなくてはならない場合、「クリックする」ことにコストが発生する可能性
	NHKへの期待	<ul style="list-style-type: none"> • アラートを表示した群について、NHKが提供することが望ましいと6割程度が回答

主なコメント	旅行者として使ってみたい層	<ul style="list-style-type: none"> • 「普段使っているSNSなどから、動画や場所に対するコメントやリンク先としてアクセスするかもしれない」(40代男性)
	地元の発信者として使ってみたい層	<ul style="list-style-type: none"> • 「食事や“映える”場所など、何が楽しいかという視点で、10秒ほどの動画がダイジェストで沢山出てきてほしい。」(10代女性) • 「自分の農作物や商品について投稿したりしてみたい(歴史的な背景なども入れつつ)」(20代男性)
	普段はインターネットを利用しない層	<ul style="list-style-type: none"> • 「ネットであれば調べる過程で意図せずに結果的にNHKアーカイブスを見るかもしれない。」(70代男性) • 「地域の人が自分の地域を知る目的でも使ってほしい」「背景や歴史をわかるようにできたら、旅の人もより深く興味がわくのではないか」(80代女性)

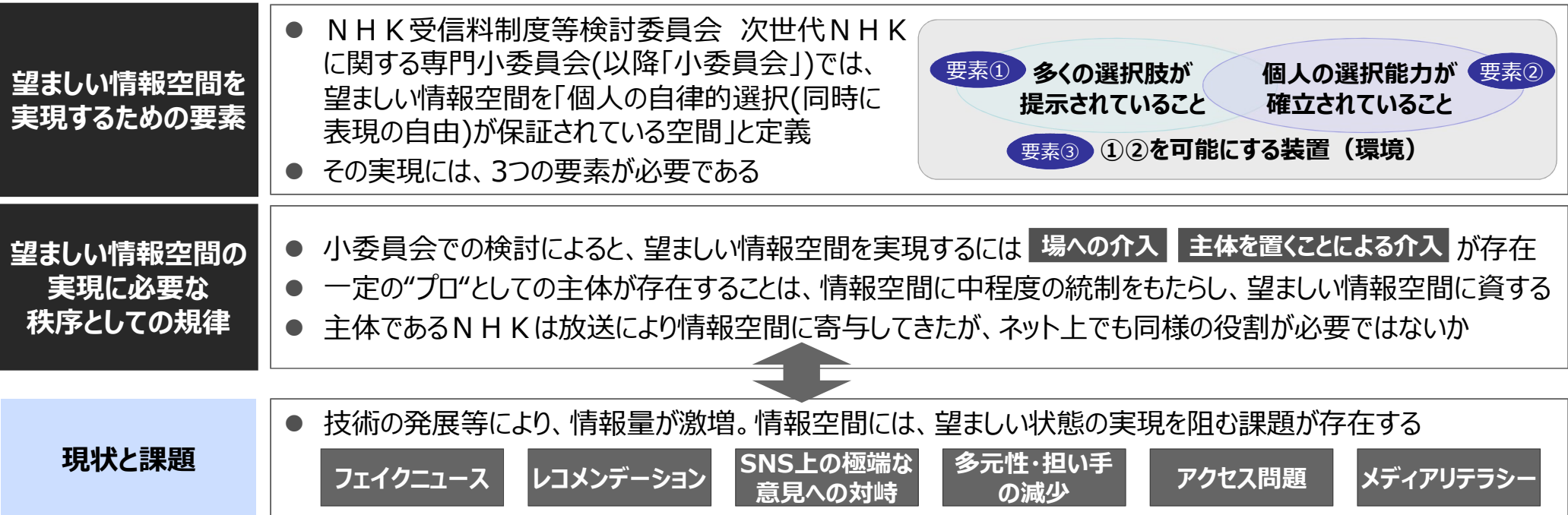
全体評価

3つの機能、それを実装したサービス（機能）への評価は高く、一定の評価ができるのではないかと。

情報空間の課題	3つの機能	個別機能への評価			
	問われている役割	個別機能			
フェイクニュース レコメンデーション SNS上の極端な意見	正しく理解が深まり、気付く	問われている役割	個別機能	解決する社会課題（対象）	数値
		<ul style="list-style-type: none"> 情報を正しく・偏りなく理解することを支援する機能が、社会に必要かどうか 多様性が共有され、分断の改善に役立つ機能が、社会に必要かどうか 	フェイクアラート アラートマーク	フェイクニュース（自身）	72.0%
			フェイクアラート 意見の分断状況を可視化	社会的分断（自身）	74.9%
		地域ニュース 地図上で各地の違いや多様性を可視化	違いや多様性の理解（社会）	79.7%	
レコメンデーション SNS上の極端な意見	知識が広がり、つながる	問われている役割	個別機能	解決する社会課題（対象）	数値
		<ul style="list-style-type: none"> 多角的視点での提供機能が社会に必要かどうか 偏ったレコメンドを避けるなどの機能が社会に必要かどうか 	NEWS WEB 関連ニュースを多角的な視点で提示	信頼できる情報・幅広い情報を見つける（社会）	77.3%
			NEWS WEB 関連番組を幅広く・分野を超えて提供	偏ったレコメンド（社会）	75.6%
		一望・連続再生 連続再生で他のニュースを提示	偏ることなく知識をつなげたり、社会の全体像を把握（社会）	66.1%	
アクセス問題 メディアリテラシー	簡単に、必要な情報が見つかる	問われている役割	個別機能	解決する社会課題（対象）	数値
		<ul style="list-style-type: none"> 簡単に、必要な情報を見つけられる機能が、社会に必要かどうか 知識や視野を広げ、社会の全体像を掴むのに役立つ機能が、社会に必要かどうか 	災害マップ 災害情報のマップ化・累積化	防災・減災（社会）	81.2%
			一望・連続再生 適切な編集方針でニュースの一望が可能	知識や視野を広げる（社会）	64.1%
		地域文化 位置情報から動画等で地域文化を発見	各地域の文化を発見（社会）	68.8%	

(参考) 情報空間の課題と必要な機能

望ましい情報空間を実現するためには、少なくとも以下の3つの機能が必要であると考えられる。



こうした課題を解決し、望ましい情報空間を実現するのに最低限必要な機能

正しく理解が深まり、気付く

知識が広がり、つながる

簡単に、必要な情報が見つかる

(詳細) 社会実証の評価

3つの機能を実装した個別サービスは、その多くが社会や対象者にとって有用との評価。
また、既存のサービスでは到達困難と考えられたような領域での評価も。

正しく理解が
深まり、気付く

- **フェイクアラート** 【留意が必要なニュースに対しアラートマークを出す】 **72.0%**が、フェイクニュースを解決するうえで自身に有用と回答
 - ・ ネット上の課題への問題意識とネット活用度が低い層の**77.0%**が自身に有用と回答
- **フェイクアラート** 【意見の分断等を視覚的に示す】 **74.9%**が社会的分断を解決するうえで自身に有用と回答
 - ・ 社会的分断等の課題について、**約9割**が問題意識を持ち、そのうちの**約半数**が、本サービスで解決可能と回答
- **地域ニュース** 【あるテーマについて各都道府県の状況を地図等で提示】 **79.7%**が、違いや多様性を理解するうえで社会に有用と回答

知識が広がり、
つながる

- **NEWS WEB** 【主要なニュースに関連したニュースや番組を多角的な視点でまとめて示す】 **77.3%**が、信頼できる情報・幅広い情報を見つけるのが難しい等の問題を解決するのに社会にとって有用と回答
 - ・ 信頼のおける情報や、多角的な視点からの幅広い情報を見つけにくいことについて、**7割以上**が問題意識を持ち、そのうちの**6割以上**が、本サービスで解決可能と回答
- **NEWS WEB** 【話題のテーマに関連する番組を幅広く・分野を超えて提供する】 **75.6%**が、通常のリコメンデーションで生じる知識の幅が狭まる・情報への理解が浅くなるという問題を解決するうえで社会に有用と回答
- **一望・連続再生** 【クリックに関連して連続再生で他のニュースも紹介する】 **66.1%**が、偏ることなく知識をつなげたり、社会の全体像を掴んだりするうえで社会にとって有用と回答

簡単に、必要な
情報が見つかる

- **災害マップ** 【災害関連のニュースを、地図上でプロットする】 **81.2%**が社会に有用と回答
 - ・ 災害情報の全体像がわかりにくいという問題意識を全体の**約8割**の人が持ち、そのうち**6割以上**が本サービスで解決可能と回答
- **一望・連続再生** 【適切な編集方針で主要ニュースを並べ、一望できるようにする】 **64.1%**が、簡単に、必要な情報を見つけたり、社会の全体像を掴んだりするためには、社会にとって有用と回答
 - ・ ニュースの全体像が見えないという問題意識を**約7割**の人が持ち、そのうち**約半数**が本サービスで解決可能と回答
- **地域文化** 【現在地等に関連して、ニュースやドラマ、教育などのアーカイブ映像を再生する】 **68.8%**が、各地の風土や多様性への気付き・再発見を促進するうえで社会にとって有用と回答

各サービスにおいて、一定の評価を得ている。

特に、社会の分断や偏り等を知ること、他地域の実情を知ることへの評価が高い。

検証事項	構成要素	社会実証の主な結果
<p>「正しく理解が深まり、気付く」機能の意義</p>	<p>インターネット上でも、フェイクや偏りに気付く、ニュースや情報を正しく理解できる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● フェイクアラート 情報を正しく・偏りなく理解することを支援する機能が、社会にとって必要と答えた人は70%を超えている ● フェイクアラート 「ある話題について、大きな分断や偏りなどがなく、多くの人たちが純粋に楽しんでいたりすることを知ること」が、「社会にとって有用」と回答した人は75.8%
	<p>インターネット上でも、日本の多様性を理解したり、自分の身近で起きていること以外の状況に気付ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域ニュース 日本の多様性や、他地域の実情を把握できることに魅力・利点があると答えた人は85.0%を超えている ● 地域文化 「日本の地域の多様性が共有されること」が必要と答えた人は63.0%
<p>NHKが担うことへの期待</p>	<p>ニュースや情報を正しく理解するのを支援したり、違いや多様性に気づきを与えたりするサービスをNHKが提供することへの期待も存在</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● こうしたサービスの提供が必要と回答した人のうち、一定数が、NHKがサービスを提供する必然性があると回答 <ul style="list-style-type: none"> ● フェイクアラート フェイクアラートのサービス：55.1% ● 地域文化 地域文化のサービス：65.1% ● 地域ニュース 「公共放送として情報の地域間格差を是正する取組みとして特に意義がある」「全国で見られるテレビとして、全国の状況を発信すべき」とサービスを求める声を確認

各サービスにおいて、一定の評価を得ている。

NHKには、特に、多角的視点で情報を提供する機能、偏ったレコメンドを避ける等の機能に期待。

。 検証事項	構成要素	社会実証の主な結果
<p>「知識が広がり、つながる」機能の意義</p>	<p>報道されたニュースを時系列で蓄積することや、多角的な情報提供を行うことは、全体像の把握につながり、知識を広げることに有用である</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● NEWS WEB 多角的視点での提供の機能について、社会にとって必要と答えた人が77.3% ● 災害マップ 災害情報の地図上でのプロットや累積化を行う機能は、83.2%が社会にとって必要と回答 ● 一望・連続再生 「ニュース映像を自動でつなげ、連続再生する機能」が、知識や視野を広げるうえで社会にとって役立つと答えた人が66.1%
	<p>人々が、偏りのない多様な情報に常時触れることで、知識を広げ、情報や社会とつながることへのニーズがある</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 一望・連続再生 偏ったレコメンドを避け、最新・重要なニュースを自動でリスト化する等、一望・連続再生のサービスについて、59.5%が社会にとって必要と回答 ● 地域文化 自分が今いる位置、あるいはどこかの地点を起点とした情報提供が社会にとって役立つと66.1%が回答
<p>上記機能をNHKが担うことへのニーズ</p>	<p>累積化された報道の可視化や、多様な情報に触れることによる知識の広がりへの期待は、一定存在する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● こうしたサービスの提供が必要と回答した人のうち、一定数が、NHKがサービスを提供する必然性があると回答 <ul style="list-style-type: none"> ● NEWS WEB NEWS WEB・NHK+のサービス：84.3% ● 一望・連続再生 一望・連続再生のサービス：57.1% ● 地域文化 地域文化のサービス：65.1% ● 災害マップ 「過去の情報を遡る機能はNHKが率先して取り組むべき」「長期に渡り、安定して蓄積してほしい」と求める声を確認

各サービスにおいて、一定の評価を得ている。

NHKには、特に、社会の知識や視野を広げること、簡単に必要な情報を見つける機能を期待。

検証事項	構成要素	社会実証の主な結果
<p>「簡単に、必要な情報が見つかる」機能の意義</p>	<p>人々が、消費者利益を感じながら、簡単に、公益に資する情報に触れられる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 一望・連続再生 適切な編集方針で主要ニュースを並べて一覧化できる機能が、簡単に、必要な情報を見つけたり、社会の全体像を掴んだりするうえで社会にとって役立つと答えた人は64.1%
	<p>人々が、社会に必要な情報を得ることで、メディアリテラシーを高められる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● NEWS WEB 「過去の関連コンテンツを一覧化する機能」が、情報リテラシーによる情報格差の解消につながると答えた人は57.6% ● 災害マップ 災害関連のニュースを、地図上でプロットする機能が、防災・減災のために今後の対策を立てるうえで社会にとって役立つと回答した人は81.2%
<p>NHKが担うことへの期待</p>	<p>人々が簡単に必要な情報を見つけることや、見逃した情報を探せるサービス、メディアリテラシーを高めるサービスを、NHKが提供することへの期待は一定存在</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● こうしたサービスの提供が必要と回答した人のうち、一定数が、NHKがサービスを提供する必然性があると回答 <ul style="list-style-type: none"> ● NEWS WEB NEWS WEB・NHK+のサービス：84.3% ● 一望・連続再生 一望・連続再生のサービス：57.1% ● 地域文化 地域文化のサービス：65.1% ● 災害マップ 「災害時にはNHKの情報が一番信頼できる」「多くの災害情報が保存されており、被害予測が正確そう」とサービスを求める声を確認

4 分類別の評価（問題意識・情報行動別）

各層において、「社会にとって有用」として、**7割以上**の評価を得たサービス・機能は、以下のようになった。
問題意識・情報行動に関わらず、幅広く受容されていることが分かる。

問題意識（高）・活用度（低）

NEWS WEB・NHK+	特に「多角的視点での提供」機能
フェイクアラート	特にトレンドの話題を知る機能
災害マップ	特にスライドバー機能
地域ニュース	地図プロット機能
一望・連続再生	特にキーワード選択機能
地域文化	特に発見機能

問題意識（低）・活用度（低）

NEWS WEB・NHK+	特に「多角的視点での提供」機能
フェイクアラート	特に詳細グラフ機能
災害マップ	特にスライドバー機能
地域ニュース	地図プロット機能
一望・連続再生	特にキーワード選択機能

問題意識（高）・活用度（高）

NEWS WEB・NHK+	特に「多角的視点での提供」機能
災害マップ	特にスライドバー機能
地域ニュース	地図プロット機能

問題意識（低）・活用度（高）

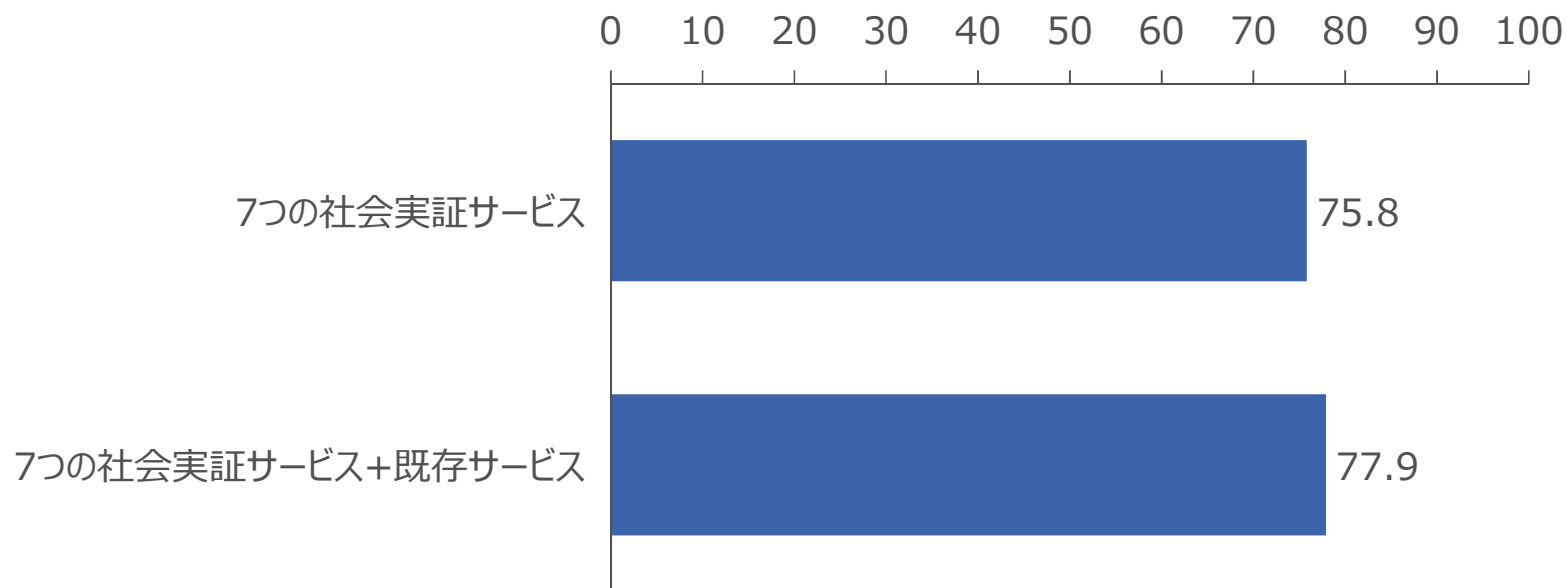
NEWS WEB・NHK+	特に「多角的視点での提供」機能
フェイクアラート	特に詳細グラフ機能
災害マップ	特にスライドバー機能
地域ニュース	地図プロット機能

(参考) “テレビ層”からの評価等

“テレビ層”の社会実証への評価

- 今回の社会実証の対象は「テレビを全く/ほとんど見ない方々」であるが、残りの「テレビを見る方々」（「テレビ層」）が、本社会実証の各サービスをNHKが提供することが社会にとって必要かどうか確認を行った。
- その結果、テレビ層の**75.8%**が、7つの社会実証サービスのいずれかについて「社会にとって必要」と回答した。
- また、7つのサービスに、既存インターネットサービスである「NHK NEWS WEB」「NHKプラス」を加えて確認したところ、**77.9%**となった。

社会にとっての必要性（%） いずれかのサービスに対して「必要だと思う」「どちらかという必要だと思う」と回答した人の割合



Q.あなたは、上記のようなサービス案を、NHKが提供することは、社会にとって必要だと思いますか。（単一回答）

出所：【NHK調査】2022年5月 ウェブ調査 調査会社パネルからリクルートを行った全国3,043人のうち、テレビ層1,251人が対象

PSM（価格感度測定）を用いたサービスへの主観的評価

各サービス機能の「価値」について、対象者による主観的評価を行い、検証を試みた

今回の社会実証で示した7つのサービスは、いずれも「理想価格」で140円程度（月額）の価値があると評価された（なお、「NHK NEWS WEB」「NHKプラス」等の従来からのサービスは含んでいない）

	サービス①				サービス②				サービス③			
	A.本格アプリ：「多角的視点での提供」				A.本格アプリ：「分野を超えた提供」				B-1.フェイクアラート			
	最高価格	妥協価格	理想価格	最低品質保証価格	最高価格	妥協価格	理想価格	最低品質保証価格	最高価格	妥協価格	理想価格	最低品質保証価格
全体（加重平均）	244	212	156	147	216	189	151	143	212	187	151	142
テレビ層	262	224	160	151	228	197	154	145	224	195	154	145
社会実証対象層	179	169	142	136	169	159	138	132	169	161	139	133
	サービス④				サービス⑤				サービス⑥			
	B-1.災害マップ				B-3.地域ニュース				B-4.一望・連続再生			
	最高価格	妥協価格	理想価格	最低品質保証価格	最高価格	妥協価格	理想価格	最低品質保証価格	最高価格	妥協価格	理想価格	最低品質保証価格
全体（加重平均）	228	201	154	146	203	182	149	140	192	179	147	139
テレビ層	242	210	158	149	212	189	152	143	199	185	149	141
社会実証対象層	174	164	140	134	165	156	137	131	164	155	137	130
	サービス⑦											
	C.地域文化											
	最高価格	妥協価格	理想価格	最低品質保証価格								
全体（加重平均）	190	178	146	138								
テレビ層	198	184	149	141								
社会実証対象層	163	154	136	130								

出所）【NHK調査】2022年5月ウェブ調査 調査会社パネルからリクルートを行った全国3,043人（うちテレビ層1,251人、社会実証対象層1,792人）

(参考) PSMについて

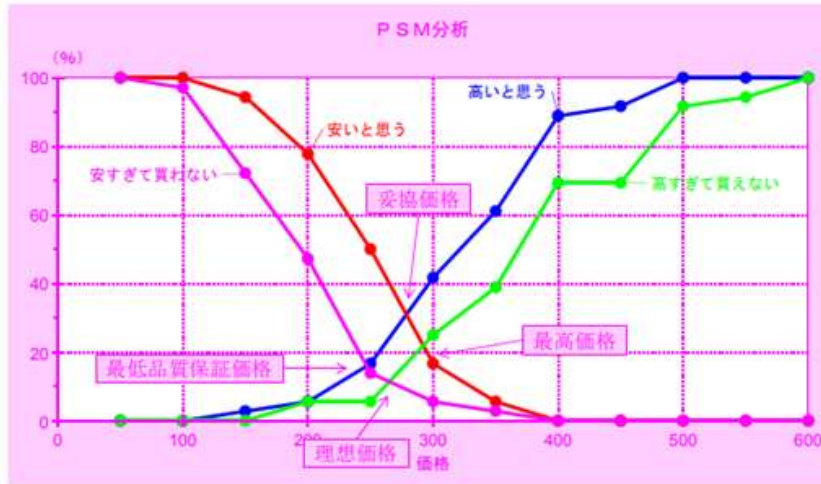
各サービスの価格弾力性をPSM : Price Sensitivity Measurement (価格感度測定) にて測定 今回の場合は受信料という性質上、普及価格となる理想価格で判断

Q. これ以上高いと買わないと思う価格はいくらですか。 _____ 円

Q. 買っていいが少し高いと思う価格はいくらですか。 _____ 円

Q. 安いので買おうと思う価格はいくらですか。 _____ 円

Q. これ以上安いと品質が不安に思う価格はいくらですか。 _____ 円



- 「高すぎて買えない」と「安いと思う」の交点 → 「最高価格」
- 「高いと思う」と「安いと思う」の交点 → 「妥協価格」
- 「高すぎて買えない」と「安すぎて買わない」の交点 → 「理想価格」
- 「高いと思う」と「安すぎて買わない」の交点 → 「最低品質保証価格」

最高価格

- 「これ以上高く値付けをすると、誰も買ってくれなくなる」という価格ポイント
- 少し高めだが許容範囲、として、従来と異なる付加価値に対するプレミアム価格を設定する際に、最も参考になる価格

妥協価格

- 「このジャンルの商品ならこれくらい (の値段)」という心理的な価格基準
- 競争中での心理的な値ごろ感であり、トップシェアの商品・サービスの価格と近くなることが多い

理想価格

- 「高すぎず、安すぎず」購買に否定的な意見を持つ人が一番少ない価格
- 生活者又は消費者の最も多くの人を買う可能性がある価格ポイント

最低品質保証価格

- 「これ以上安くすると消費者が『品質が悪いのではないか』と疑い始める」価格ポイント
- 利益が小さくなりがちのため、数量が増えれば増えるほど固定費の比率が急激に下がる商品・サービスに向く価格

出所) 宮城県ホームページ
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20321/617766.pdf>

NHKによる自己評価

社会実証（第一期）に対する、NHKによる評価

情報空間の課題 ・ 小委員会の検討

- NHK受信料制度等検討委員会 次世代NHKに関する専門小委員会（以降、「小委員会」）では、以下を定義している
 - 望ましい情報空間：個人の自律的選択（同時に表現の自由）が保証されている空間
 - 要素①：多くの選択肢が提示されていること
 - 要素②：個人の選択能力が確立されていること
 - 要素③：①②を可能にする装置（環境）
- 小委員会においては、要素①②に対する課題を大きく6つに分け、解決の方向性、規制のあり方、主体の自主取組、さらにはPSM（公共サービスメディア）の可能性について議論を行っているところ

社会実証による 存在意義の確認

- そうした中で令和3年8月27日、総務省からNHKに、放送番組等のインターネット配信の意義やサービスニーズを検証するため、テレビを保有していない方々を対象として、放送番組等の配信を行う社会実証実施の要請があった
- NHKはかねてより、放送法に基づき、社会的な意義を掲げて業務にあたってきた。近時、総務省検討会などの場では、インターネット時代の公共放送の意義・役割等が課題であることが提起されており、総務省要請もふまえて社会実証を行うこととなった
- 今回の社会実証では、NHKが情報空間に提供するサービスについて意義を確認し、その結果を踏まえて、NHKが果たす意義や存在価値、新たなあり方につなげることを目指した

社会実証の内容

- NHKが果たす意義を検討するにあたっては、望ましい情報空間を実現するため、情報空間上の課題の解決に寄与することが重要である
- そのため、社会実証（第一期）のサービスに必要と考える機能を3つ（「正しく理解が深まり、気付く」・「知識が広がり、つながる」・「簡単に、必要な情報が見つかる」）に整理した
- 3つの機能を体現し、望ましい情報空間を実現するためサービス案を7つ作成した。社会実証の対象者はテレビ視聴が少ない方々で、ネット活用度とインターネット上の課題に対する問題意識に応じて4分類し、分析した(対象者は3,000人、実施時期は令和4年4月～5月)

結果における NHKの妥当性

- 社会実証の結果、3つの機能の価値や、それを体現したサービスが提供した事項に対して高い評価を得た
- また、本社会実証の対象者は、テレビ視聴が少ない層であったにもかかわらず、上記の機能をNHKが提供することの必然性についても、一定の理解と支持が得られていた
- こうしたことから、上記の機能をNHKが果たすことが、情報空間の課題解決や、望ましい情報空間の実現につながると考えられる
- よって、放送で担ってきたことと同一の社会的な意義について、NHKがインターネット上で果たすことの妥当性が一定程度示されたと言えるのではないか

(参考) 外部有識者の見解

外部有識者で構成される委員会（定款62条に基づく会長諮問会議）に設置した専門委員会（「次世代NHKに関する専門小委員会」）から、本社会実証及び結果の評価について見解を得た。

- 本実証はこれまでの小委員会での検討を適切に踏まえ、情報空間の望ましい姿・要素、課題等から必要な機能を抽出し、社会実証の各サービス案を設計・実施していると考えられる【設計・実施の妥当性】
- 情報空間の課題を解決するためにNHKが設定した、「正しく理解が深まり、気付く」・「知識が広がり、つながる」・「簡単に、必要な情報が見つかる」という3つの機能については、小委員会の規範的検討を踏まえた観点であり、実証サービスで検証すべき妥当なものであると考えられる【視点の妥当性】
- 本実証において、「テレビを全く/ほとんど見ない方々」という対象者から、3つの機能の社会的意義、そしてそれらをNHKが提供することの必然性について、一定程度の評価を得ていることから、インターネットを含む情報空間において、NHKの存在意義はあると考えられる【結果を踏まえた意義の評価の妥当性】

「次世代NHKに関する専門小委員会」構成員名簿

- 曾我部 真裕（京都大学大学院法学研究科 教授 / 委員長）
- 以下委員、五十音順
- 大澤 彩（法政大学法学部法律学科 教授）
 - 巽 智彦（東京大学法学部・大学院法学政治学研究科 准教授）
 - 船木 夏子（有限責任監査法人トーマツ 公認会計士）
 - 松下 東子（野村総合研究所 プリンシパル）

【親会】NHK受信料制度等検討委員会

- 安藤 英義（一橋大学名誉教授・専修大学 名誉教授 / 座長）